

教育委員会議事録

平成27年7月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(平成27年7月定例会)

- 1 日 付 平成27年7月24日 (金)
- 2 場 所 海老名市役所703会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 松樹 俊弘 教育委員 海野 恵子
教育委員 平井 照江
- 4 出席職員 教育部長 岡田 尚子
参事兼教育総務課長兼次長事務代理 金指 太一郎 参事兼学校教育課長 飛矢崎 義基
参事兼教育指導課長 鷺野 昭久 学校教育課保健給食係長 外村 智昭
教育指導課長補佐兼教育支援センター所長兼指導主事 山川 勇 教育指導課児童育成係長 西海 幸弘
教育総務課主幹 仲戸川 元和 教育指導課教育指導係長 小宮 洋子
- 5 書 記 教育総務課庶務係長 佐藤 哲也 教育総務課主事 魚谷 尚子
- 6 開会時刻 午前10時00分
- 7 付議事件
日程第1 報告第12号 海老名市教育委員会関係職員の人事異動について
日程第2 議案第17号 平成28年度使用教科用図書採択について
- 8 閉会時刻 午後4時45分

○伊藤教育長 本日の出席委員は5名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会7月定例会を開会いたします。

ご承知のように傍聴人がたくさんおります。傍聴につきましては教育委員会会議規則第21条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思いますのですが、ご異議ございませんか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって傍聴を許可します。傍聴人を入室させてください。

(傍聴人入室)

○伊藤教育長 それでは、傍聴人の入室が終わりました。

それでは、会議を進めたいと思います。

初めに、議事録署名委員の指名を行います。本定例会の議事録署名委員は、規定により、教育長において、松樹委員、平井委員を指名いたします。よろしく申し上げます。

○両委員 はい。

○伊藤教育長 本来、教育委員会は飲食禁止になってはいますが、本日は長丁場になり、暑い中ですので、我々もこのように用意しておりますので、傍聴の方々も適宜水分補給をしていただいて構いません。冷房は入っておりますけれども、これだけ人が入っておりますので、遠慮なさらず、飲み物を飲みながら傍聴していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

本日の日程については、すでにお配りした議事日程のとおり、報告事項が1件、審議事項が1件の計2件となっておりますので、よろしく願いいたします。

○伊藤教育長 初めに、平成27年7月定例会教育長報告をいたします。

1点目は、例月のとおり主な事業報告でございます。

6月26日、6月の定例会以後の予定を入れてあります。29日は、この年の目玉である「よりよい授業づくりのための学校訪問」の第1回を今泉小学校で行いました。その後、現在、学童の支援について教育委員会で見直しを図っているところで、学童クラブの方々との話し合いを7月3日に持っています。

ビナスプール支援と入っておりますけれども、今年からビナスポで小学校1年生の低学年が始まるということで、私もバスの誘導等に入りました。本当に使いやすいプール

で、非常にきれいなところで、中には一般の方々もいらっしやっていて、最初は少し不具合があったのですけれども、私が接した方々は皆さん、「今日はどこの学校、何年生」とすごく関心を持ってくださっていました。子どもたちは子どもたちでプールを使用して、ウォーキングプールのほうは大人の方々が使用しているという状況で活用がありました。

11日には親子ナイトウォークラリーを開催いたしました。今年は海野一家、松樹一家の参加がなくて、とても残念な思いをしたところでございます。

その後、白石・登別県外研修説明会。昨日、白石の小学生が来て、杉久保小学校で交流をして、無事、白石に帰った状況がでございます。このような形で今月は進めております。

2点目ですけれども、これは7月5日に岩手県で中学校2年生の子どもが、新聞報道はいろいろありますけれども、間違いなくいじめを1つの原因として自分の命を絶つという痛ましい事案がありました。その時期はいろいろあったのですが、私はそのことしか気になっていなかったなと思っています。ただ、このことをどう学校に伝えなければいけないかと思って、すぐに教頭会がありましたので、9日の教頭会で教頭先生方にお話をして、13日は第2回市教委・校長連絡会がありましたので、その中で校長先生方と話をしました。校長先生方との話し合いの中では1時間ほど時間を別建てでとって、意見交換をしました。私自身は、これはある意味で特異な例ではないのだなと。もちろんそれが起こることを危惧して我々是对応するのですけれども、海老名市のある学校で同じようなことが起こったときに、それは常に防げるかどうかというのは、自分なりにすごく心配がありました。何が心配かという、もちろんお子さんと保護者の方々の痛みが一番の心配で、私も勤めていましたけれども、学校ではどう受けとめたのだろうというのすごく考えました。または、そこにいる子どもたち。ちょうどあの頃は7月の始まりですから、多分中学3年生は、岩手県でも中体連に向けて毎日練習して、3年間の成果を出すという、これから試合のときに、そのことをどう受けとめたのだろう。本当にいろいろな人たちの生き方とか人生を変えるぐらいの出来事がそこで起こったことについて、学校ももちろん、そのお子さんとその保護者の方も含めて、周りの方が本当に心を痛めているだろうと思いました。

では、それをどう防ぐのかということで、これは断片的な報道でしかないのですけれども、担任の先生は知り得ていた。でも、そのときに私が思ったのは、今までのいじめ案件は担任すら知らない、親すら知らないという中で起こることもあったので、その子は担任の先生には気持ちを伝えることができていたのだということに関しては、ある意味で学校

は1つ、子どもたちとのつながりのパイプは持っていたのだなと思いました。ただ、そのことを学校という組織の中でどう共有するかというのが常に難しいところがあるのかもしれない。それは海老名市でも、やはり担任の先生が1人で抱え込まないような、または管理職はそのことに気が付いて、声かけられるような学校体制を確実に保つ必要があると思います。

いじめに関しては、学校ごとにいじめ防止の基本方針を立てて、各学校でアンケートを実施するとか、そのことで挙がってきたらこう対応するとか、その対応の組織は校内でこういうものを持つというのは決まり事で、もう昨年度から設定されています。そういう意味で、海老名市でも、自分たちの学校で定めたものを再度確認して、もう1つは日ごろから先生方同士が声を掛け合ったり愚痴を言い合えるような、そういう風通しのよい環境を管理職も心がけてつくる必要があるだなということで話をしました。校長先生方からも、再度見直す必要があることとか、あとは子どもたち1人1人に対応するのは教師の基本ですけれども、その心のアンテナを、みんなが本当に持って、そのことを言うことが恥ずかしいことでない。例えば自分のクラスをつくると、よいクラスをつくらないと、ほかの人に、あの先生は力がないと思われるような環境とか状況でなくて、みんなで子どもたちを育てる、普段から言い合えるような、そういう環境であってほしいということをして、先生方からも、そういう感想が出て、具体としては、再度、校内体制を見直すということで確認が取れたところでございます。この件に関して、委員のほうから何か感想等がありましたらお願いいたします。

○平井委員 今年度、6月29日に、「よりよい授業づくりのための学校訪問」ということが初めて実施されたと思います。これは先生方の授業を見て指導主事が指導をするということですが、初めてされた状況とか先生たちの反応とかはいかがだったか、そのあたりをお尋ねしたいと思います。

○伊藤教育長 私の報告ですけれども、具体は教育指導課長からお話しさせます。

○教育指導課長 先生方に特に指導案の提出等も求めずに、日ごろの授業の様子を見せてくださいということで、前もって単元等は把握しておりましたけれども、特にかしこまった感じもなく、日ごろの授業の様子を見せていただきました。その後は20分から25分にかけて、全員の先生方と授業について語るということをベースにしてやってきましたので、その見せていただいた授業はもちろんですけれども、日ごろの授業で何か困っていたり、今こういうところを頑張っている、という話をして、授業について、これからもまた一緒

に考えていきたいと思いますという内容で進めていきました。

特に学校の先生方からの感想はとっていませんけれども、指導主事の反応としましては、先生とごつくばらんな話ができよかったというような感想は持っております。

○平井委員 ありがとうございます。ご苦労さまでした。指導ももちろん必要ですが、やはり先生方の日ごろの話を聞きながらお互いが語るという、それがとてもよいと思います。そういう中で指導主事の先生も学校や先生方の様子を把握していただいて、今後の指導に生かしていただくという点では、初めてだったと思いますが、これからも続きますので、ぜひ1回目を参考にしながら、反省と課題も出ていると思いますから、今後、各学校で実施をしていただけたらありがたいと思います。

○伊藤教育長 私がお願いしたのは、その話し合いには、絶対にお茶とお菓子を出すようにということだけ指示しました。

○松樹委員 2点目にいただきました岩手の自死の件でございますけれども、私も大変衝撃を受けました。私は報道でしかももちろん知りませんので、軽々に内容を話すような立場ではありませんけれども、子どもたちが訴えていたにもかかわらず、それが組織的にうまくならなかった。もちろんそれは学校の中で情報を共有しながらというやり方が一番だと思うのですが、いろいろな中で悩みを抱えたお子さんは、海老名にももしかしたらいらっしやるかもしれません。今、夏休みで、8月下旬ぐらいから2学期が始まると思うのですが、やはり、また学校が始まるのか、という中でございますので、教育支援センター「えびりーぶ」とか、文部科学省でも24時間、困ったときはすぐ電話してくれ、SOSを上げてくれと。海老名市ももちろん電話がありますので、学校の先生、友達にも言えなかったからここにとりあえず電話してくれと、子どもたちに直接何か訴えかけられるような施策が夏休みの間にできたら一番よいと思うので、また知恵をめぐらせた中で、早目に手を打っていただきたいと思います。その辺について、教育長、何かありますでしょうか。

○伊藤教育長 さまざまな電話対応とか、もちろん海老名も休日、土曜日もしじめ対応電話ができることになりました。子どもたちにとっては、例えばこういうカードがあろうが、何を貼られていようが、その手段に対して、それを「やる、やらない」というのは非常に厳しいところがあって、もちろん、だからそれを周知しなくてもよいということではなくて、周知は十分にするけれども、子どもたちがそれに自分でアクセスできるようなものであってほしいと思いますので、再度、周知については徹底したいと思います。

それから、前にご提案があった生徒手帳に支援センターのカードを入れるという話はし

てありますので、そのようなところで、身近に自分がぱっと見たときに目につくような工夫もしてまいりたいと考えております。

ただ、我々もそうなのですが、電話するにも、例えば、「松樹さん、電話したほうがよいよ」と誰かが声をかけてくれるもので動きがないので、家族も含めて周りの人たちに様子を本当によく見ていただいて、学校はもちろんのことですが、それは職務ですから、そういうソースにアクセスできるようなよい環境を整えたいと思います。最後のほうは漠然としていますけれども、具体としては、そういう周知の方法を、再度徹底したいと思います。

○海野委員 私も岩手のことは本当に心を痛め、このことで自殺する必要はなかったのではないかとつくづく思われました。この学校は「連絡ノート」というすばらしいことをされているのかかわらず、こういうことが起きてしまったということは、本当に子どもたちを見守っているのは先生ですから、先ほど校長会の反省会にもありましたけれども、先生が全体の子ども1人1人を見つめる目をもっと持っていただきたい。先生同士の連絡を持っていただきたい。それと同時に、保護者の方も、子どもたちが帰ってきた「ただいま」とか、その一言で、そのときの学校の様子とか子どもたちの様子がわかるように、もっと子どもたちに目を向けていただければなど、こういうことが海老名とか全国的にも二度と起こってもらいたくないなということをつくづく感じました。感想です。

○平井委員 今回の件に関して、教育長が早目に教頭、校長にお話をしていただけたというのはとてもよかったですと思います。日々、学校が何の対応もしていないというわけではないのですが、やはりこういう早い対応がとても大事だと思います。その中で、先ほど教育長がおっしゃった風通しがよいというのは学校の中で一番大事なところですね。ですから、やはり風通しのよい学級づくり、風通しのよい職員関係、風通しのよい職員室、これらを各学校が心がけていただいて、先生たちがどこでも気軽にいろいろな話題、特に子どもの話題を出せる雰囲気づくりを是非していただけたら、小さなことも共有できるのではないかと思います。また管理職の先生方には、そういう部分での学校づくりを見直す機会にもしていただけたらよいと思います。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、ご質問等もないようですので、よろしいですか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、これで教育長報告を終わりにします。

○伊藤教育長 議事に入ります。 日程第1、報告第12号、海老名市教育委員会関係職員の異動についてを議題といたします。

岡田部長に説明をお願いします。

○教育部長 それでは、日程第1、報告第12号、海老名市教育委員会関係職員の人事異動についてでございます。

本件は、海老名市教育委員会関係職員の人事異動につきまして、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則第3条第1項の規定により臨時に代理し発令いたしましたので、同条第2項の規定により報告するものでございます。

内容でございますが、資料の2ページでございます。平成27年7月1日付の人事異動で主査級2名が異動となっております。氏名及び新旧の所属につきましては記載のとおりでございます。

○伊藤教育長 ただいまの説明について質問、ご意見等ありましたらお願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 これは定例の人事異動ということですか。よろしいですか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって日程第1、報告第12号を承認いたします。

それでは、ここで、次の議案の資料準備を行うため、「暫時休憩」といたします。

(休憩)

○伊藤教育長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

○伊藤教育長 それでは、日程第2、議案第17号、平成28年度使用教科用図書採択についての審議を行います。

岡田部長より説明をお願いします。

○教育部長 それでは、議案第17号、平成28年度使用教科用図書採択についてでございます。

本議案は、平成28年度において使用する教科用図書を決定したいため、議決を求めますのでございます。

本日は3点についてご審議をお願いいたします。

1点目は、平成28年度使用中学校教科用図書の採択についてでございます。これは、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の調査結果を参考とし、別紙1、中学校用教科書目録により、平成28年度から4年間使用する教科用図書、種目ごと1種の採択について、議決を求めるものでございます。

2点目は、平成28年度使用小学校教科用図書の採択でございます。小学校教科用図書につきましては、平成27年度使用教科用図書を継続して使用するため、改めて採択について議決を求めるものでございます。

最後に3点目、平成28年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてでございます。特別支援学級教科用図書につきましては、文部科学省著作教科書及び別紙3にございます平成28年度用一般図書一覧から教科用図書として児童生徒に応じて選択するため、採択について議決を求めるものでございます。

それでは、この後、1点目の平成28年度使用中学校教科用図書の採択につきまして、詳細を鷺野教育指導課長から説明いたしますので、よろしくご審議くださるようお願いいたします。

○教育指導課長 それでは、ご説明いたします。

まず、4月の定例教育委員会で「海老名市教科用図書採択基本方針」として、「平成28年度以降4ヶ年の中学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める『平成28年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針』に基づき、海老名市教育委員会が設置した海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を資料とし、種目ごと1種の教科用図書について海老名市教育委員会が採択する」と承認されております。また、「海老名市教科用図書採択資料作成委員会方針」として、「平成28年度以降4ヶ年の中学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める『平成28年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針』に基づき、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が設置した調査員の報告を資料とし、教科用図書の採択に必要な資料をとりまとめ、海老名市教育委員会へ報告する」と承認されております。

以上の点を踏まえまして、5月19日と7月14日に行われました2回の採択資料作成委員会での調査結果につきましてご説明させていただきます。

紫色の表紙の報告書です。「海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書」をごらんください。この報告書は、採択資料作成委員会が種目ごとに教科書を調査研究して作成したものでございます。この報告書には、大和、座間、綾瀬、海老名の4市の調査員が5月27日、6月17日、6月26日に調査員会を3回行いました。その調査結果を採択資料作成委

員会へ報告した内容を採択資料作成委員会で検討し、結果がまとめられているものがございます。なお、結果につきましては、種目ごとに種類を絞り込むことはなく、各発行者について調査研究した結果でございます。また、市内全ての中学校へ教科書の見本本を1週間回覧し、学校からの意見を集約した結果も中に一緒にまとめられております。

学校意見の集約方法については、まず、海老名市内の全ての中学校において、種目によって異なる10から11個の観点に沿って調査していただき、その観点に当てはまる発行者にマルをつけていただきました。その際に、マルをつける発行者は複数でも可といたしました。そのマルの数を採択資料作成委員会委員長が委嘱した整理員が集計し、その結果をもとに採択資料作成委員会において報告書に発行者ごとに記載いたしました。

ただし、教科書の見本本の送付が1冊だけでありました株式会社学び舎の社会（歴史的分野）については、学校への回覧は行わなかったため、学校からの意見については掲載されておられません。

この採択資料委員会報告書に加えて、事前に配付させていただきました各発行者が作成しました「教科書編集趣意書」、県教育委員会の「調査研究の結果」を踏まえ、ご審議くださいますようお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○松樹委員 ご説明の中で学校意見の集約の方法についてのご説明がありました。そのほか種目によって異なる10から11個の観点に沿って調査をしたということでございますけれども、中身の観点というのは、どのような観点を調査されたのかご説明いただけますでしょうか。

○教育指導課長 例えば国語を例にとらせていただきますと、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているのか、内容の程度や分量は生徒の発達段階に即して適切なのか、社会的状況を反映した題材を取り上げて生徒が興味を持って学習できるように配慮されているか、基礎的・基本的な内容、発展的な内容、自主的・自発的な学習の取り扱いが適切なのかどうか、他の教科との関連はどうか、また、体裁がよくて生徒が使いやすいよう配慮されているか、そしてその学校の子どもの実態から見て適切であるか、そのほか、その教科、種目ごとに応じた観点が3つから4つ挙げられておまして、それぞれ種目ごとに10から11という観点になっております。

○伊藤教育長 それでは、ご質問もないようですので、1から3までの先ほどの3点の審

議に移ります。

初めに、採択の方法について、委員さん方に確認いたします。皆さんで協議した中で、私のほうから教科書目録の順に発行者の名前を言いますので、そこで皆さん、自分で挙手をするという形の多数決で決定するということよろしいですか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、その方法で採択の決定をしたいと思っております。

次に、採択資料作成委員会の報告は、この紫色の表紙の報告書で出されているということです。海老名市教科用図書採択資料作成委員会の笠原祐治委員長に報告をしていただきます。よろしいですか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、笠原祐治委員長を入室させてください。

(笠原委員長入室)

笠原委員長、報告書の作成、ありがとうございました。それでは、自己紹介をお願いしますか。

○笠原委員長 こんにちは。今回の採択資料作成委員会の委員長を務めました笠原祐治と申します。よろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、1点目の平成28年度使用中学校教科用図書についての審議に入ります。

まず、国語について、採択資料作成委員会の調査結果の報告を笠原委員長にお願いいたします。

○笠原委員長 国語は、東書、学図、三省堂、教出、光村の5種です。

東書は、学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む意欲」に関連して「学びを支える言葉の力」で主体的な学習を支える言葉の力を系統的に学習する工夫がなされている。「伝統的な言語文化と国語の特質」に関連して、伝統的な言語文化に親しむことをねらいとして「月夜の浜辺」「落葉松」が取り上げられている。学校からは、内容の程度や分量が生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多くあった。

学図は、教育基本法に示されている「国際理解と平和と発展」に関連し、「心を動かす言葉」、「顔の見える国際協力」を取り上げて、国際理解と平和について考えるようになっている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、発展的な学習ができる古典教材の解説や評論が取り上げられている。学校からは、学習指導要領に照らして必要な

ものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

三省堂は、学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度」に関連して各教材の学習目標や学習の流れが「学びの道しるべ」で示され「学びを広げよう」で他教材や生活へつなげる工夫がされている。「読むこと」では、「読み方を学ぼう」によって読みの方略を図解で示し、課題意識をもって学習に取り組み、振り返りが行えるように工夫されている。学校からは、内容の程度や分量が生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多くあった。

教出は、教育基本法に示されている「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし創造性を培い」に関連して、「体験したことを文章にする」「言葉の上達は競技を上達させる」が取り上げられている。「読むこと」では、筆者の問題提起を通して自分の考えをまとめる教材「ベンチ」「私」が取り上げられている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

光村は、学習指導要領の「言語活動」に関連して、「話題や方向を捉えて話し合おう」が取り上げられ、日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることが設定されている。「書くこと」では、論理的文章を書くための教材として「説得力のある文章を書こう」が取り上げられている。学校からは、各領域の教材例が適切であり、生徒の発達段階に即しているという意見が多く、圧倒的な支持を集めていた。

○伊藤教育長 それでは、今、委員長から報告書の説明がありましたけれども、まず委員から委員長に質問がありましたら出していただけますか。

○松樹委員 それでは、質問させていただきます。その前に笠原委員長、資料作成ありがとうございます。

実際の採択資料作成委員会では、この国語の分野に関しまして、中身でどのようなことが話題になったのか教えていただければと思います。

○笠原委員長 主に3点ありまして、1つは、古典の扱いについて、2点目が、現在使用している教科書で教師の意図が伝えられているのか、3つ目が、生徒の状況によって扱いに配慮が必要な物語教材はないかという3点について話題になりました。

1点目の古典の扱いについては、現在使用している教科書では、1年で「いろは」からなじみやすく触れ、「竹取物語」で今と変わらぬ人の思いを感じて古典を味わい、2年では「枕草子」で季節の趣を鑑賞し、3年では「奥の細道」で地図をたどりながら俳句の世

界を味わい、現代文に訳すことも学習しています。よい流れで生徒が古典に親しむことができているということが出てきました。

2点目の現在使用している教科書で教師の意図が伝えられているかについては、今、古典の扱いでも説明したとおりです。教材がバランスよく扱われていて、国語力を高めることができているということでした。

3点目の生徒の状況によって扱いに配慮が必要な物語教材はないかについては、障がいや放射能問題のところから海老名市に来ている子どもたちとか、児童養護施設が背景にある物語文の学習では、生徒に配慮しながら進めているということがありました。しかしながら、教材としての価値が高く不適切なものはないということが話題になりました。

○海野委員 学習指導要領では「言語活動」が重視されているようですが、各教科書ではどのように扱われているかお願いいたします。

○笠原委員長 各教科書とも、討論やパネルディスカッションについて扱われています。小グループから全体への話し合いという流れで構成されています。学年に応じて、話す力・聞く力を高めていくという教材設定になっています。学年を追うごとにレベルを上げていくという構成の意図がうかがえると思います。

○平井委員 今年度も行われましたが、全国学習状況調査の結果で、海老名市は「書く力」に多少課題があるのではないかと結果が出ていますが、その対応という点ではどうですか。

○笠原委員長 「書く力」に対しては、先ほどの報告のとおり、各教科書で工夫して取り上げられているのではないかと思います。採択資料作成委員会では、特に話題にはなりませんので、事務局から補足説明があればお願いいたします。

○教育指導課長 「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、「書く」領域に係る教材数の比較が載っております。国語の9ページを見ていただくと、3年間を通しまして、東書が9、学図が6、三省堂が11、教出が12、光村が14という教材数になっております。

○伊藤教育長 今のは教科書の中の「書く」領域に係る教材数が発行者ごとに今の数だけ取り扱われているということですか。

○教育指導課長 そのとおりです。

○伊藤教育長 東書が9で、学図が6で、三省堂が11で、教出が12で、光村が14という確認でよろしいですか。

○教育指導課長 そのとおりです。

○伊藤教育長 わかりました。他にご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、これから協議に入ります。ご自宅にも教科書を持っていただいで十分見ていただいているところです。今、目の前にもありますので、もう1度確認していただいで、それぞれ委員のほうで意見、または話し合いたいことがありましたらお出しただいで、その後に挙手をお願いしたいと思しますので、よろしくお願ひします。

それでは何かありましたらお願ひします。

○岡部委員 国語ですけれども、どの科目も大事ですが、とりわけ全ての教科の基本になるのが国語の力だと私は思っております。そういう中で豊かな情操や合理的な思考力を育むために優れた文学作品や味わいのあるわかりやすい文章が載っているということはもちろんでありますけれども、そうした中で私は、語彙が豊富でないと物を考える上でいろいろ制約が出てくると思っています。したがって、語彙をきちんと身につけられる、あるいは言語感覚を鋭く豊かにするようなものという視点で考えてみました。

もう1点は文法です。日本語の文法はなかなか難しいのですが、国語の文法を中学生にわかりやすく示してあるものがよいと思ひました。

○海野委員 それぞれの教科書はとてもすばらしい内容で、子どもたちにとってとても見やすいと思ひました。本当に採択するのに国語は難しいなとつくづく感じました。

その中で何を重視したらよいかなど思ひしたのは、中学生は情緒不安定な時期で、とても心が揺れ動く時期なので、その中で少しでも気持ちを休められるというか、教科書を見ることによって、そうなんだ、そういうこともあったのだということがわかるようなものがよいかなど私自身考えました。教科書で見たら、小学校から中学校で「言葉に出会うために」というフレーズが1年の巻頭にあったのが光村です。教科書を開けばたくさんの言葉があなたを待っていますよと書いてあるフレーズがあったので、新しい言葉に出会う喜びを知ろうというところは、気持ちがすごく伝わって情緒を豊かにさせるのかなと思ひました。

それと同時に、「季節のしおり」という欄があったのですね。それで、日本人の忘れかけていた心を読み取れるということがそこに書かれているのではないかなと思ひました。四季に応じた歌や二十四節気言葉を配したと光村のこれにもありますが、そのような感じを子どもたちにもっと理解してもらえれば、子どもたちの心も情緒豊かになるのではな

いか、豊かな心が持てるのではないかということを感じました。

最後の裏表紙に「色いろの言葉」というのが載っていたのですが、言葉の美しさを味わおうということで、それもすばらしいなということが理解できてよかったです。

○伊藤教育長 確かに日本ならではの色の表現ですね。

○松樹委員 先ほど岡部委員のおっしゃったように、国語はいろいろなものの基礎だと思います。この3年間で何を子どもたちが力として身につけて、また感じていくかというのは非常に大切なところだと思います。どの教科書もすてきだなと思いながら、全て読ませていただいたのですが、1、2、3年生と積み上げの観点で見て、今、発行者の名前が出ましたけれども、光村は段階に応じて心と書く力だったり、漢字だったり、いろいろな力が身につけていくのではないかと感じた次第でございます。私も余談話みたいな形ですけども、巻末の「色いろの言葉」は、全部読んで最後にそれを見ると、四季がある日本で、情緒的といいますか、すてきだなという感じがいたしました。3年間段階を追って力がしっかり身につけていくというのが私は一番大切なことなのではないかと思っております。

○平井委員 まず表紙を見させていただいて、本当に夢がある、それぞれの教科書会社で工夫をされてつくられていると感じました。それから、見開きの活用も、詩を入れたり、絵だけにしたりとか、紙面づくりにしても、すっきりした教科書づくりや余白を残した構成など、本当にそれぞれの教科書会社の特徴があって、どの教科書でも学ばせてよいと思いました。

その中で小学校も光村を使っている、そういうつながりの観点から見させていただいたときに、まず教科書の最初に、「学習の見通しをもとう」ということで、ここに国語の領域を載せてくださったというのがすごく大きいと思っています。子どもと先生がともにこの単元はどういう学びをするのかというのが一覧で入っていることと、話す、聞く、書く、読む、言葉の領域を全部別にとってページを新たにつくってくださっているんですね。これがすごく大きいと思いました。

それから、語彙指導は小学校にも入っているのですが、今、岡部委員からも、語彙力について話がありましたが、1年生、2年生、3年生で中学校でも語彙指導を入れてくださっています。小学校5年生、6年生では言葉の宝物ということで入っています。今度、中学校では語彙指導ということで感想をあらわす言葉、感情をあらわす言葉、抽象的な言葉というふうに学年を追うごとに視点を広げて語彙を豊富にさせていこうという狙いがあり

ます。そういう点からしても、子どもたちが小学校から中学校へのスムーズな学びができていくのではないかという視点から私は見させていただきました。

○伊藤教育長 今、4人の委員からそれぞれご意見を出していただきましたけれども、平井委員が言ったように、海老名市の小学校は光村を採択して現在も使っているということで、中学校も光村です。私のときには1度、三省堂に変わったこともあるのですけれども、海老名市は光村がずっと使われているという状況でございます。行政の立場からいうと、学習状況を高めたいわけでもないのですけれども、「書く力」ということで、書くことに光村はある程度力を入れているということはありがたいと思っています。

そういう中で、本当に皆さんおっしゃるように、我々が子どものころは、こんなきれいな教科書はどこにもなかった。それぞれ工夫されていて、どこの教科書を使ってもよいのですけれども、継続性とか教員の立場からすると、教材研究をすることを考えると、例えば本当に課題がなかったら無理にこれをどうするというのではなくて、ある程度どこでも認められると私は考えるところです。ですから、光村が現行のものであれば、今皆さんが意見を言われたように、そのよさが認められるということで、私はそのように考えるのですけれども、皆さんはどうですか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 決)

(東書0票、学図0票、三省堂0票、教出0票、光村5票)

○伊藤教育長 結果、国語につきましては、最多の5票を獲得した光村を採択することに決定いたします。

次に、書写について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いいたします。

○笠原委員長 書写は、東書、学図、三省堂、教出、光村の5種です。

東書は、教育基本法「公共の精神」に基づき、主体的に社会に参画する生徒を育成する単元構成になっている。「防災訓練」を題材に防災訓練の企画書作成や防災マップを作るなど、書写で学習したことを日常で生かす方法を、ストーリー形式で示している。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

学図は、学習指導要領に示されている「伝統的な言語文化」に配慮し、古典教材の積極

的な掲載が行われている。学習の進め方で毛筆学習の意義を提示することにより、学習の流れを明確にしている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

三省堂は、「豊かな情操と道徳心を培う」行書導入の題材として取り上げられた詩や教材の言葉が生徒の心に響く。目的や読み手を意識して書く習慣を身につけさせたり、生活の中に学んだことを生かしたりするための教材が設定されている。学校からは、体裁がよく、生徒が使いやすいよう配慮されているという意見が多くあった。

教出は、学習指導要領の「伝統や文化に関する教育の充実」が図られている。「目的に合わせて」「日常生活に生かして」等により文字文化や社会生活との関連を図った学習ができる。学校からは、毛筆と硬筆の教材例及び用筆、配列など基礎的な事項に関する教材例について適切に取り扱われているという意見が多くあった。

光村は、教育基本法の「職業及び生活との関連を重視」した学習ができる。ユニバーサルデザインの観点から紙面構成を工夫し、生徒の立場に立って字形の整え方をわかりやすく示している。学校からは、基礎的・基本的な内容と発展的な内容、自主的・自発的な学習の取り扱いが適切であるという意見が多く、圧倒的な支持を集めていた。

この種目については、国語の教科書と同じ発行者のものが指導しやすいという調査員の意見があった。

○伊藤教育長 それでは、調査報告についてまず質問がありましたらお願いいたします。

○海野委員 教材の取り扱いについて、特筆すべき点はありましたか。

○笠原委員長 各教科書の工夫については、先ほど説明したとおりですけれども、日常生活や職業に関するもので実生活に活用できることや伝統的な言語として古典を扱った学習展開となっています。採択資料作成委員会では、特に話題になったことはありませんでした。事務局からもし説明があればお願いしたいと思います。

○教育指導課長 教材数に関してですけれども、県の調査研究結果の書写の8ページに内容がありまして、「全教材における毛筆と硬筆の教材数」という比較があります。3年間で東書は毛筆が84、硬筆が112、学図は毛筆が44、硬筆が37、三省堂は毛筆72、硬筆が67、教出が毛筆86、硬筆が94、光村が毛筆55、硬筆84となっています。

○岡部委員 先ほど報告していただいたほかに採択資料作成委員会ではどんなことが話題になったのでしょうか。

○笠原委員長 現在の生徒の日常生活にはメールなどを使うことが多くて、実際、手書き

のものが少なくなっているけれども、書写での扱いはどうなのかということが話題になりました。書写では、正しいひらがなの使い方や実際の送り状や手紙の書き方など手書きで実生活に使うものを教材として扱っているというような話が出ていました。

○伊藤教育長 実際、子どもたちはメールとかLINE等だったら言葉を短縮してしまう。それがみんなと共有できるかといったら、できないから、こういう機会の中で手紙の書き方を教材として扱っています。小学校だとどこかに見学に行ったら感想要旨をよく書いているような気がします。手紙という形では、自分たちも確かにそう言われると、文章はみんな今パソコンで打って学校に渡します。

○松樹委員 先ほど報告の中で、国語の教科書と同じ発行者のものが使いやすいというご説明をいただいたのですが、どの点かもう少し詳しくご説明をお願いしたいと思います。

○笠原委員長 国語の教材で学習したものが書写でも扱われている。また、装丁や表記の方法が国語と書写が同じであることによって、生徒は非常に親しみが持ちやすい。また、学校意見では同様の理由で、指導しやすいので国語の教科書と同じ発行者のものがよいという意見がありました。

○伊藤教育長 ほかに報告書について、採択資料作成委員会に質問はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、また5人で協議してまいりたいと思いますので、ご意見があればお出してください。

確かに先ほどの分量で週1時間ぐらいですか。国語は中1が4で中2が4で中3が3なので、この時間で先ほどの厚い国語の教科書も使ってこの教材をどこまで扱うかというのは、そう考えると多ければよいということではない。

○岡部委員 今も話題になっている3年間でこの1冊というのは、それだけ時間が少ないのだらうと思うのですが、私は日本の伝統とか文化を尊重するという観点からも、とても大事な教科だと思っています。時間が少ないのはしょうがないのですが、全体を通して、どの教科書も平易な言葉が多いと感じました。指導要領に示されているのかもしれませんが、書写は1つの文字を丁寧にじっくり書いていくということなので、頭の中にしみ込んでいくのではないかと私は思っています。先ほどの報告にもありましたが、今の時代は、大人ももちろんそうですけれども、書く機会が減っているということがあります。そこで、多少難しくても言葉そのものが美しい言葉というか、深遠な言葉、例えば漢詩だとか故事成語の中に、最初はよくわからなくても少しずつしみじみ伝わってくるよ

うな言葉が、学年が上がるにつれてもう少しあってもよいのではないかと教科書を見て感じました。

○伊藤教育長 形を整えて、難しい言葉でも何回も何回も書かされた記憶が私にはあるのですけれども、紙を真っ黒になるまで使えとよく言われました。

○海野委員 私は先ほど採択された国語の教科書と同じ出版社のほうがいいと最初から思いながら拝見しましたら、情報を集めるということが国語の教科書に書いてありました。その関連で、情報を集めて、今度は書写で整理しようとか、発信しようという内容で書き方が説明されていたので、やはり同じ出版社がよいということを変更して思いました。

あと、光村ですけど、表ページの1枚目に桜のページがあります。それが桜の花と文字が何ともいえず、ほっとするようにならわされているのがすごく入りやすいという印象を持ちました。

あと、ほかの出版社ですけど、篆刻をつくってみようというのがありました。それは篆刻に触れるということではすばらしいなという感想を持ちました。

○平井委員 中学で新たに学ぶ行書と仮名という部分では、それぞれの会社が中学校ではこういうものを学んでいきますよということがきちんと示されていると思います。そういう中で、まずはいろは歌の書き方を、2社はきちんと書き順を示していますので、そういうところは初めて学ぶ子にはよいかなと感じました。

あとは、先ほどから出ている時数の関係で、これだけの教科書ということですが、各社それぞれの思いがあって構成はしてくださっているのですが、光村は3年生が割と少ないですね。選択でできるのではないかと思うのですが、3年生になると時数的にも3学期はとりにくいでしょうから、各担任や子どもの実態に合わせて選択をして指導していくという点では、有効な教科書の使い方ができるのではないかと見ています。

それと、小学校とのつなぎ、国語の教科書とのつなぎの点からも、同じ会社のものを子どもたちに学ばせてよいのではないかと思います。

○松樹委員 手短に感想めいた言葉で申しわけないのですが、今ご意見をお聞きして、日常生活で文字を使って人に出すのは、わかるというメッセージがあるわけですね。書道はそうですが、例えば伝票1つにしても、文字を書いて伝えるという手紙1つにしてもそうですし、よりよい内容は各社ともあるのですが、私は読んでいて光村のほうを読みやすいといえますか、伝わりやすいのではないか、中学生が理解しやすいのではないかと、率直に感じた次第でございます。

○伊藤教育長 他にないようですので、それでは、採決いたします。

(挙 手 採 決)

(東書0票、学図0票、三省堂0票、教出0票、光村5票)

○伊藤教育長 結果、書写につきましては、最多の5票を得た光村を採択することに決定いたします。

次に、社会（地理的分野）の審議を行います。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 社会（地理的分野）は、東書、教出、帝国、日文の4種です。

東書は、「幅広い知識と教養を身につける」という観点から、「地理にアクセス」では関連する知識を習得でき、さらに「深めよう」において学習内容を掘り下げることができるように工夫されている。「地理スキル・アップ」では、地理学習に必要な技能が定着するよう工夫されている。文章は中心部に、資料は上部と両サイドに配置されていて、学習内容の定着がしやすい構成となっている。学校からは、内容の程度と分量は、生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多くあった。

教出は、学習の中心となる「主題」、学習事項を表す「副題」が示され、さらに「学習課題」を明記することで生徒が学習内容に主体的に取り組めるよう工夫されている。キャラクターが多く、吹きだしを使って資料の着眼点や読み取るポイントが示され、興味関心が高まる工夫がされている。章末、節末に基礎的事項の確認と自分の言葉で表現するコーナーが設けられている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

帝国は、單元ごとに振り返りが設定されており、生徒自身が確認、深化、発展できるように工夫されている。「羅針盤マーク」を用いて、社会の形成に主体的な参画を促し、「技能をみがく」では、情報処理に関して段階的に学習を進めることができる。日本の諸地域について、各地域の序説で見開き2ページを写真や地図で構成し、考察がしやすいようになっている。学校からは、社会的状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習できるように配慮されているという意見が多く、圧倒的な支持を集めていた。

日文は、コラムや学習のまとめのチェックボックスなどにおいて、書き込む形を多くとっており、言語活動の充実が図られている。キーワードや豆知識などが数多く設けられており、学習を深める工夫がされている。防災、環境について力を入れている。構成として、本文、写真、地図、グラフ、コラムなどが、見開き2ページに数多く盛り込まれてい

る。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 笠原委員長の報告について質問がありましたら、お願いいたします。

○松樹委員 地理の教科書の中で、日本の領土、領海の記述について、各教科書会社はどのように記述されているかお教え願えますでしょうか。

○笠原委員長 どの教科書でも、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」については、日本固有の領土として、これまでの経緯、現状の課題等が記述されています。記述の詳細については、「神奈川県教科用図書調査研究の結果」の地理の14ページから地理の20ページに記載されていますので、参考にさせていただきたいと思います。

○伊藤教育長 文科省の学習指導要領を改正しましたので、検定を通過しているから、これは多分記載されているのでしょうか。その記載がなくては現状では検定を通りませんからね。ただ、現状の課題をどう捉えるかは、また少し違いが出てきますね。

○海野委員 各教科書それぞれ特徴があると思いますけれども、生徒の関心を引くためにどのような工夫がそれぞれなされているか、教えていただきたいと思います。

○笠原委員長 先ほど説明したとおり、各教科書では、生徒の興味関心を高め、自主的に学習に取り組み、知識理解の定着や思考判断力を養うために、さまざまな工夫がされていると思います。どの教科書でも、巻頭に教科書の使い方の説明があり、特設コーナーや使用されているマークなどの解説があります。その工夫はそれぞれですけれども、特徴的なのは、どの教科書にも教員や生徒のキャラクターが登場して、学習の進め方、課題・疑問点を吹き出しで投げかけるようになっています。多い教科書では、教員と生徒で6人、少ない教科書では生徒が2人というようなことでした。

○岡部委員 学校意見の中で、これほど特筆すべき点があったのでしょうか。

○笠原委員長 各教科書とも全体的に分量が増えて、見やすく、わかりやすく工夫されているという意見がありました。また、現在使用している教科書は、身近な事象が取り上げられていて、生徒が関心を持って学習に取り組めるようになっていて、今の子どもたちの実態に合っているという意見がありました。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、協議に入ります。

前回、昨年度の小学校の教科書のときもそうで、子どもたちが教科書で自分たちが自主

的に教科書を見れば学習できるようになるのも1つの教科書の役目ですけれども、私自身が感じたのは、例えば写真などすごくよい資料の横に吹き出しがあるのはいかがなものかと考えます。子どもたちはその写真を見て自分が感じたことに気がつくのですけれども、気づいたことを誰かが言ってしまっていたら、その1枚の写真からとか、1枚の資料からというのが社会の授業の1つの鉄則でもあって、その中から自分が気づいたことをみんなで話し合おうとか、それはどうなっているのだろうという課題が生まれて、勉強しようというのが社会なのに、全部ご丁寧に、先生まで出てきて、このことについて調べてみようでは、先生は何をするのか。

今、4教科書全部に入っているのです。傾向としては、こういう教科書が今後の傾向になるし、去年の小学校がそうだったのですね。学習の仕方がわかるとか、自分たちで学習できるという意味ではすごく効果的だけれども、本当に教科書を見て、1枚の写真から何かを思い浮かべてみんなで話し合って、例えば自分たちが行ったことのない世界のことを想像して話し合って、調べて確実にしていって、その課題は何かという学習の流れを、これが手伝っているのか、そいでいるのかということはすごく疑問に感じています。ですので、教科書の今のつくりがこういう形にどんどんなっていくと、本当にご丁寧というか、子どもたちが何のこだわりもなく学習がわかりやすく進むのがよい教科書なのか。やはり何かを感じて、子どもたちがそれに気づく。気づきが吹き出しで言われてしまうと、僕は少し悲しい。子どもたちに、この写真を見て「どう」と言うと、「こうだよ」とか、先生は、「そうだよ」とか言い出して、そこから学習が生まれる。先ほど委員長の説明がありましたけれども、2人から、多いところでは先生2人と子どもが4人出てくるのですけれども、その辺についてはどうなのかというのは、私の感想みたいな意見ですけれども、言わせていただきました。

○松樹委員 教育長のキャラクターの話ですけれども、私も実はそう思っていて、初めに説明でキャラクターの位置づけがあるのですが、読んでいるうちに、ぱっと出てきたときに、この人は誰だっけと、また最初に戻って、この人はこうなのねという教科書もあります。全くないほうがよいと言っているわけではなくて、そのキャラクターが効果的に活用されていれば一番よいのではないかと思います。例えば一方に誘導するような吹き出しが出ているのよりは、子どもたちが自主的にこの絵とか写真を見て感じるままにというのが私はよいと思っています。

そして、地理的分野の中ですけれども、身近な話題が出てきている教科書もあって、地

理という分野の中で、子どもたちが「何だろうこれ、どうなっているのだろう」と興味を引くものが一番よいのではないかと考えております。

私は帝国が一番よいと思っているのですが、特に中に出てくる「羅針盤マーク」が、読んでいる中でぱっとそれが出てきて、非常にわかりやすいと思いました。

感想めいた話で申しわけないですが、以上でございます。

○岡部委員 キャラクターについては私も同じように感じているのですが、どの教科書にもということは、子どもたちにとって、これは好まれる傾向にあるのでしょうか。

○伊藤教育長 個人的な意見ですけれども、逆になかったら斬新だったかもしれないとは思っています。どかんと1枚写真があって、そこから学習がスタートするような構成になったら、すごくおもしろい。全てがそうなる必要はないのですけれども、全てが同じパターンで同じように学習するのはどうなのか。

○岡部委員 この教科に関して、地理ということですので、写真とかいろいろなデータがかなり目につくわけですが、私は教科書を選ぶときの1つの視点としては、ビジュアル的にすぐれているもの、統計資料にきちんとメンテナンスがされているかどうか重点を置いて見てみました。

○伊藤教育長 教科書なので常に最新の情報であると思えますけれども、「社会」はつくって出したときと現状でかなり変わってきますので、採択されて発行のときに、資料としては、また変えられると思えます。

○海野委員 どの教科書もとてもすばらしく見やすくできていて、どれを採択してよいかわからないという感じの分野だと思います。その中で、近年の必要性から自然災害に対する理解ということで、ハザードマップの扱い方が丁寧に紹介されている欄がありました。これは子どもたちにとっても必要なとすごく感じ取れました。

私は帝国を選んでいきます。また、全体の教科書もそうでしょうけれども、特に世界や日本各地の地域や産業の説明が細かくされているという点では、帝国のほうがよいと思いました。

あとは私ごとですけれども、1ページにイタリアのアルベルペッコの写真が出ていてすごくうれしかったです。

○伊藤教育長 こういうのを見てもらって、こういう生活をしている人がいるのだと思います。だから、こういう写真は重要ですよね。効果的になると思います。

○平井委員 私も先ほどから話題に出ていますキャラクターについては、多少入れ過ぎか

なという思いはあります。やはり中学生ですから、少し考えさせるということも大事なのかなと思っています。

本当に幅が広いので、私は地形図のところとグラフのところを見てみたのですが、特に地形図の記号等を各教科書がどんなふうに扱っているかというところの紙面扱いを見てみました。等高線も含めて縮図、拡大図等もあるのですが、そういう中で大きく扱っているところ、小さく扱っているところ、鮮明なところ、少し見にくいというところは多少差はあると思います。

それから、帯グラフ等を各会社はいろいろな形で載せてくださっているのですが、枠からはみ出て数字が記載されているところもあるのですね。ですから、そういうところは少し見にくいかなと思いましたが、きちんと帯グラフの中に数字が入っている、きちんと色別がしてあるとか、子どもたちがそういうところから、きちんとグラフを読み取るという観点からも、必要ではないかと思いました。

難しい用語の説明等がそれぞれの会社でされていました。

私は今申し上げたようなところを基準にすると、帝国がよいのではないかと思いましたが。記号等も一番大きく紙面の割り付けをしてくださっていますし、子どもたちがこれから学んでいくにはよいのかなと思っていますので、その教科書がふさわしいと思います。

○伊藤教育長 学習課題もこのような感じで、ここでこれをやりましようとなるから、教員が全然違う学習課題で、きょうはこれをやりますということだと、それを考えたりもするのですけれども、このとおりにやらざるを得ないとなるとまた考えなくてはいけない。ただ、資料の読み取りは社会の特性ですので、どう読み取っていくかという意味ではいろいろな資料が出て、また比較資料があると非常にわかりやすい。子どもが気づきやすいということになると思います。いろいろなコーナーを設けて、これは見えても飽きないですよ。

他に意見はよろしいですか。私は最初に言ったので、これは全然違った基準で、登場人物が少ないのを私は選びます。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙手採決)

(東書0票、教出0票、帝国5票、日文0票)

○伊藤教育長 結果、社会(地理的分野)につきましては、最多の5票を得ました帝国を

採択することに決定いたします。

次に、社会（歴史的分野）について審議を行います。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 社会（歴史的分野）は、東書、教出、清水、帝国、日文、自由社、育鵬社、学び舎の8種です。

東書は、各章の始まりで小学校の学習内容をイラスト入りで把握し、系統的に学習を積み上げていけるような内容となっている。各章の終わりにある「深めよう」では、今日的な課題の解決のための意識と態度を育て、多様な資料で発展学習ができるように構成されている。1単元時間で基礎的・基本的内容を定着させるために、課題の提示から、本文の展開、まとめの課題と、内容の構造化を図っている。学校からは、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されている、子どもの実態からみて適切であるという意見が多く、支持を集めていた。

教出は、各章の終わりに「時代の変化に注目しよう！」があり、写真を使って次の章（時代）との比較ができ、興味関心を高めるように工夫されている。「歴史を探ろう」や「歴史の窓」のコラムで、日本の文化・伝統の理解や、人々の生き方についての考察を深めることができるようになっている。各章の終わりに「学習のまとめと表現」を設け、年表や地図でまとめる方法が示され、発展的な学習ができるようになっている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

清水は、小学校の学習内容とのつながりを配慮して、小学校で学習した人物を各章（時代）の扉に絵や写真で掲載している。前近代では、図版や写真などの資料を多めに掲載し、興味関心を高めようとしている。近代の学習を重視し、「近代化の進む世界と日本」の章では28単元時間を配当し、背景となる世界史の記述も丁寧に行っている。写真資料や図を外側に配置し、文章を内側に掲載している。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

帝国は、各章の冒頭に「タイムトラベル」を配置し、時代の特色を理解させやすくし、生徒の興味関心を高めるような内容にしている。コラムで11のテーマを設け、具体例を通じて学習を深め発展的な学習につなげて、社会の担い手としての意識を育成するよう工夫されている。文化のページ数が多めにとられ、日本の伝統文化に対する愛着がわくような構成になっている。学校からは、社会的状況を反映した題材の取り上げ方や、社会的事象

に関する基礎的な知識や技能等の習得の面で配慮がされているという意見が多く、支持を集めていた。

日文は、編の初めに4ページにわたり、大きなイラストや写真資料と地図で学習内容を示し、興味を持って学習に入れるよう工夫されている。図版特集を見開き2ページに設け、資料活用の向上を図っている特設ページ「先人に学ぶ」や「歴史を掘り下げる」で今日的課題の歴史的背景を解説し、また先人の生き方を紹介することで、歴史から自分の生き方を考えることができるよう工夫されている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

自由社は、歴史をストーリーとして読めるような表現を使い、興味関心を高めるようにしている。「歴史豆辞典」の100字用語解説により基礎基本の定着を図っている。本文で記紀の神話が取り上げられ、さらにコラムでも取り上げるなど、古代史と神話を重視した構成になっている。課題を91単元時間で構成して、調べ学習や発展学習の時間を確保しようとしている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

育鵬社は、各章の始まりに「歴史絵巻」を設け、興味関心を高めるよう工夫されている。扉の写真に日本の美を表す作品を掲載し、日本の伝統文化についての興味を高めるような工夫をしている。「なでしこ日本史」のコーナーを設け、女性の歴史に関心を持たせるような内容になっている。各章ごとに「虫の目で見ると」という項目を設けて、人々の生活に着目させて学習意欲を高めようとしている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

学び舎は、各章・各単元の冒頭に、特色ある教材が配置されることにより、自主的に学ぶことができる内容になっている。生徒の発達段階に即した適切な写真資料や図を扱い、学習理解を深めることができる。本文に丁寧なふりがながつけられ、できるだけ易しい文章にしており、生徒が無理なく読み通せるように工夫している。

領土の問題については、各社とも一方的な表現ではなく「このような事実があって現在このような状況になっている」という書き方になっている。

従軍慰安婦の記述に関しては、学び舎は河野談話の紹介という形で掲載されており、その他の出版社は掲載されていない。

強制連行の記述に関しては、東書は「朝鮮の人や中国の人が意志に反して日本に連れてこられた」、教出は「連れてこられた」、清水は「無理やり連れてきた朝鮮人・中国人や連

合軍の捕虜も炭鉱などで働かせた」、帝国は「なかば強引に割り当てを決めて朝鮮人と中国人を集めた」、日文は「動員され働かされた」、自由社・育鵬社は「徴兵や徴用が適用された」と記されている。

○伊藤教育長 それでは、今、歴史分野について説明がありました。報告について質問があればお願いします。

○岡部委員 今、報告をしていただきましたが、もっと何かほかのことが採択資料作成委員会で話題になったことがあったら教えていただきたいと思います。

○笠原委員長 3つ話題になりました。1つは、歴史上の人物の扱いについて、2つ目が近現代の戦争から戦後の扱いについて、3つ目が考える授業について話し合わせ、意見が出ました。

1つ目の歴史上の人物の扱いについては、約300名から500名の人物が登場する中で、人物のイメージが持てるように指導している、重要な人物を中心に指導しているということが話として出ました。

2つ目の近現代の戦争から戦後の扱いについては、各教科書130ページから150ページの扱いがされていて、以前は2学年までの扱いで詰め込みぎみでありましたけれども、今は第3学年でも扱い、詰め込みという状況がなくなってきたということです。

3つ目の考える授業については、1単位時間を使って行う場合もあるけれども、授業時間数と学習内容の関係でなかなか難しいので、5分間個人で考えて、その後10分間グループで考えるという工夫をしているということが出されました。

○伊藤教育長 社会科学習では中学だと、先生が黒板に何枚も書いたのを全部メモして、覚えた人はよくできたということがあったのですが、今の笠原委員長の話だと、考えたり話し合ったりするのも取り組まれているということですね。

○松樹委員 先ほどの報告書の中で、領土問題と強制連行が出てくるのですが、先ほど少しご説明がございましたけれども、採択資料作成委員会の中で特段ご意見だとか話し合われたことがありますでしょうか。

○笠原委員長 領土や強制連行については、先ほど説明したとおり、それ以上特に話し合いはなされませんでしたので、事務局からもし補足説明があればお願いしたいと思います。

○教育指導課長 それぞれの発行者の記述が載っています「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、歴史の25ページから27ページが北方領土について、28ページから29ページ

ジに竹島について、30ページから31ページに尖閣諸島について取り上げている記載事項が、それぞれ書いてあります。

また、強制連行については、先ほど委員長から説明がありましたとおりでございますが、32ページから33ページにかけて強制連行と拉致について取り上げている記載が詳しく書かれておりますので、それをご参照いただければと思います。

○伊藤教育長 傍聴の方、厚いものなので参考資料で5部ずつ後ろに置いてありますので、見ていただけたらと思います。この中に確かに入っていますので、まとめると、先ほど委員長の報告のような形になるということですね。

○平井委員 各教科書会社、それぞれさまざまな工夫がされていて、どれも各会社の特色が出ているなど見させていただきました。学習の進め方という点で特筆すべき点がありましたか。

○笠原委員長 どこも今言われたように工夫されているのですけれども、特に学習の進め方ということでは、この前の地理的分野でも説明しましたけれども、教員や生徒のキャラクターが学習を進めるためのナビゲーションの役割を担っている教科書がほとんどだったと思います。その人数は、やはり2人から6人で教科書によって違っている。巻頭だけで登場する場合と、本文中にも登場する場合があります。

また、どの教科書も学習課題や疑問点が示されていて、生徒の投げかけによって学習が進められるような構成になっている。学習の仕方という観点では、人物に焦点を当てたり、地域での調べ学習の仕方を示したり、また、発表会の仕方を示したりして、学習の方法や手順を説明するような工夫が見られていたと思います。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、5人でまた協議してまいりたいと思います。

歴史分野については、委員の皆さんにも私にも事前にいろいろな方々からお手紙等をいただいているのが現状です。我々はそれに対して、採択に当たっては、基本は文科省の趣意書と県の調査書と笠原委員長の報告と、あと学校の意見、それから教科書の一般の閲覧のときの感想も全て読ませていただいております。皆さんのお手紙等も読ませていただいておりますけれども、それについては採択資料には使わないということでやっております。さまざまな関心があって、それに対して歴史認識がそれぞれあるのでしょうかけれども、さまざまな教科書が出ているところでございます。

ただ、自分が子どものころ、私は昭和30年生まれですけど、その時代の教員たちは、どちらかというとその部分を避けていたなと感じています。だから、古い時代のことがすごく長く扱われて、明治維新になると歴史は終わるのかなと感じたぐらいで、その後は取り扱われていなかった。その中で私自身感じたのは、私はすごくこちらに寄った考え方も、こちらに寄った考え方もない。となると、大人たち、我々教育委員もそうですけれども、子どもたちの教科書に示すものはどういうものかと考えたときには、本当に史実として正しいことがずっと並べられていて、それに対して、それを受け取った子どもたちが、それをどう感じるのか。例えば本当にすごいことになってしまっているとか、こういうことをやったということの子どもの感想に対して、大人が、いや、それは違う、ということではない。子どもたちには正しい資料を提示して、それを子どもたちがどう受けとめるかを、我々は完全に保障しなければいけないというのが、私の基本的な考え方でございます。

ですので、歴史についてはバランスよく先ほどのことも考えながら、教科書としてやるのか、また、読み物として何らかのものを伝えるのかと考えると、歴史の教科書は、史料があって、史実が正しく記されていて、それを授業で扱ったときに、受け手の学習者の子どもたちは、それをどう判断するかというものにかかっているのです。その学習者である子どもたちの判断を強制することはできない。そういう意味で、どの教科書がよいのかなと、私はバランスで考えているところでございます。例えばそれが余りにもナビゲーションになっても困るし、または、意図がそこに存在するようなものでも困るなど感じているところでございますので、委員さん方から何か意見がありましたらお願いします。

○松樹委員 今の教育長のご発言に、私は全く同感ですが、1つの出来事を多角度から見られていろいろな意見が持てるというのがよいのではないかと思います。歴史の教科書を見ていると、どれもおもしろいのですね。さかのぼっていく中で、わくわく、ドキドキしながら教科書を子どもたちが1枚1枚めくる。その中で歴史の捉え方はさまざまあってよいのだと私は思います。みんなでディスカッションしたり、意見のやりとりをしたりして歴史を学んでいってほしいというのが、私は一番手にあります。

その中で、教科書会社によって日本の伝統文化が多めにとられている教科書もありますので、それを読んでいて改めて私も気づかされるような記述もありましたし、何でこれをこんなふうに乗せたのだらうというものもありました。どこをどう挙げるというわけではないですが、これを子どもたちが見てわかるのかなという教科書もありました。子どもた

ちが読んでわくわくしながら1枚1枚ページをめくって、いろいろな意見を持ちながら、この歴史という教科を勉強できる環境をつくってあげるとというのが教科書なのではないかと思っております。感想めいた話で申しわけないですが、私はそう思っております。

○岡部委員 歴史ですが、中学生になって本格的に学ぶのだらうと思うのですが、私は我が国の歴史の大きな流れを理解させることが大切なのではないかと思っております。そのためにもさまざまな学力の子どもたちにとってわかりやすさ、あるいは学びやすさが重要だと考えます。そして、歴史の勉強は中学だけで終わるわけではなく、いずれ高校、あるいは大学、また、社会人になってもいろいろな方々の意見を聞いたり書物を読んだりするわけですので、歴史の事象を一面的に捉えるのではなくて、多面的、あるいは多角的に捉えて、それぞれの選択肢を与えるということが大切なのではないかと思っております。

○海野委員 私はこの歴史の教科書を選ぶ最初には、歴史の流れがわかりやすい教科書を選ぼうと思いました。子どもたちにとって歴史はすごく大切なので、わかりやすいのがよいと思ひまして、それを念頭に考えました。

私は帝国を選んでおりますが、巻頭の「歴史をたどろう」というところで、日本の歴史の流れが登場人物を通してわかるように、最初の段階で登場人物が流れをつくっているということがありました。それから、「タイムトラベル」で学習する前に時代の特色が理解できるようなものがあらわされているのが入りやすいと思ひました。「歴史を探ろう」で「日本の領土と近隣諸国」というページが設けられていて、その経緯が丁寧に見やすく扱われている点が、帝国はよいのではないかという自分の感想を持ちました。

○平井委員 どの教科も小学校とのつながりが大きいのですが、特に6年生で歴史の学びをして、また、中学につなぐという点では、いろんな人物も多く出てきますし、時代時代の出来事もありますので、スムーズにつながれたらよいのかなと思ひます。

そういう点からは、小学校で学んできたものがそのまま生かせるもののほうがよいと思ひますし、多面的、多角的ということが岡部委員から出ていますけど、そういう角度からも子どもたちには与えていく必要があると思ひます。私は、海老名市でも小中一貫を目指していますので、学習の中にもそういうものを今後取り入れていく必要があるのかなと感じますので、そのような視点から教科書を選びたいと思ひます。

○伊藤教育長 それぞれ考え方とか視点とかが出されたのですけれども、歴史分野についてほかにはどうですか。海野さんの言った帝国「タイムトラベル」などはほかの教科書にも同じような工夫はあるけれども、その中でも。

○海野委員 特に「タイムトラベル」はよいのではないですか。

○伊藤教育長 本当に写真がこれだけ豊富に使われ、資料も豊富な教科書があって、全てということです。

○海野委員 全てを子どもたちが覚えるのかと思ったら大変ですね。

○伊藤教育長 ただ、先ほどの授業の仕方もあったけれども、前みたいに記憶だけでずっとやるような社会でもないですので、また、表現などで話し合いやディベート等もありますので、この学び舎のは1冊しか来ていないので見てください。皆さん、どの本にするかは、もう大丈夫ですか。

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 決)

(東書1票、教出1票、清水0票、帝国3票、日文0票、自由社0票、育鵬社0票、学び舎0票)

○伊藤教育長 結果、社会(歴史的分野)につきましては、最多の3票を獲得した帝国を採択することに決定いたします。

次に、社会(公民的分野)について審議を行います。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 社会(公民的分野)は、東書、教出、清水、帝国、日文、自由社、育鵬社の7種です。

東書は、幅広い知識と教養に関連し、本文の学習内容を補充する「公民にアクセス」や各種コラムにより知識の習得や多面的な見方、考え方ができるような工夫がされている。導入の資料や「確認」「公民にチャレンジ」などで日常的、段階的な言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育む内容になっている。学校からは、社会的状況を反映した題材を取り上げ生徒が興味を持って学習できるように配慮されている、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されているという意見が多く、支持を得ていた。

教出は、多種多様なグラフや図表、写真などの資料が示され、それらを読み解くことにより、思考力・判断力・表現力が身につけられるようになっている。單元ごとに「ふりかえる」のコーナーを設け、その時間に学習したことをもとに、表現活動に取り組めるようになっている。学校からは、社会的状況を反映した題材を取り上げ生徒が興味を持って学習できるように配慮されている、統計その他の資料が最新のもので信頼性があり生徒の発達の段階に即しているという意見が多く、支持を得ていた。

清水は、主体的に学習に取り組む態度を養うために「人物をクローズアップした扉」を設け、興味を高めたり、單元ごとに「調査」を載せ、話し合ったり調べたりするための工夫がなされている。本文の内容や憲法・法律などの関連ページにおいて、解説が細かく記載されていて、基礎的な知識を習得しやすいよう配慮されている。本文と解説の配色を変えるなど視覚的にもわかりやすい配慮がされている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

帝国は、「トライアル公民」で思考力・判断力・表現力を高めるため「対立と合意」「効率と公正」を示し、合意にいたる課題が設けられている。「地理・歴史をふりかえる」というコラムが作られ、既習内容を繰り返し学習できる工夫がされている。索引の項目数が多く、難解な語句を調べやすい工夫がされている。学校からは、他の教科等との関連が必要に応じて取り上げられている、統計その他の資料が最新のもので信頼性があり生徒の発達の段階に即しているという意見が多くあった。

日文は各編はじめの「ナビ」で関心を高め、最後の「チャレンジ公民」で学習内容を活用し、思考するという流れで知識と教養を身につけるように設定されている。将来の社会参画に生かされる教材を「明日に向かって」「日本が世界に提供できる価値」「情報スキルアップ」などで提示している。今日的課題を考えることができる教材（人権・環境・平和・防災・伝統と文化）も充実している。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

自由社は、社会科の他の分野や理科、音楽、美術など他教科と関連する内容を豊富に取り入れている。補充学習の強化として「ミニ知識」の欄を設け、発展学習の強化をしたり特設ページ「もっと知りたい」を設けたりして、補充的な学習や発展的な学習が自然にできるようになっている。多面的・多角的な考察ができるように、国民の間にある対立する見解を複数提示している。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

育鵬社は、幅広い知識を身につけさせるため、「理解を深めよう」を掲載し学習の補充をしている。社会的状況を反映した題材を多く導入に取り入れ、興味関心を高めている。「伝統や文化」の尊重に関連させ、写真を多数掲載し、興味を高めさせる工夫がされている。知識の定着のため、單元末に文章でまとめさせる内容が含まれている。また、章末に練習問題があり、繰り返し学習させる配慮がされている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、報告についての質問から、まず受けたいと思いますので、委員のほうから質問がありましたらお願いします。

○平井委員 公民の中でも「言語活動」「表現活動」などが出てくるのですが、それにかかわって生徒の主体的な活動を促すような学習の進め方について、何か特筆すべき点はありましたでしょうか。

○笠原委員長 「言語活動」「表現活動」についてですけれども、どの教科書にも、「言語活動」「表現活動」にかかわって、論文とかレポートを作成するために「テーマの設定・調べる・考察する・まとめる・発表する」という学習活動が設定されていました。また、その過程での話し合いやディベート形式での話し合い活動についても提示されています。教科書ごとに特徴がありますけれども、「言語活動」「表現活動」については、主体的に生徒が活動できるように工夫がされていると思います。

○伊藤教育長 レポートの最後になったら卒業論文みたいなものを扱っているから、3年生のまとめとしては、そういうのが非常に有効なのではないでしょうか。

○海野委員 ささまざまな統計やグラフ、写真など諸資料について、採択資料作成委員会で話題になったことがございますか。

○笠原委員長 各教科書の特徴については、先ほどの報告のとおりで、特に今おっしゃられた統計やグラフ、写真、そういう資料についての話題は出なかったと思います。もし事務局から補足説明があればお願いしたいと思います。

○教育指導課長 やはり「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、公民の44ページに構成・分量・装丁の資料がございます。グラフの数については、東書が105、教出が121、清水が62、帝国が96、日文が130、自由社が41、育鵬社が72、写真と絵の数については、同じところの欄に東書が517、教出が426、清水が266、帝国が386、日文が419、自由社が261、育鵬社が491という数が載っております。

○伊藤教育長 グラフと写真と絵の数ということは、東書だったら、グラフは105で、写真と絵が517だから、622のそれが教科書に入っているということですね。

○教育指導課長 はい。

○岡部委員 学校の意見ですけれども、海老名市の生徒の実態に対応しているかという点ではいかがだったでしょうか。

○笠原委員長 各学校の生徒の実態に対応しているかということですが、どの教科書も学習の進め方について工夫されていて、見やすくわかりやすいものになっているとい

うことです。また、現在使用している教科書についても、現実的な身近な社会的事象が題材となっていて、適切であるという意見がありました。また、教員や生徒も、現在使用している教科書になれ親しんでいて、使用していて大きな課題は特にないということでした。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、公民について、また5人で協議していきたいと思います。

歴史でもそうですが、資料がたくさん出たら、それが全て扱えるのか。子どもたちは目を通すけれども、資料が多いほうがよいのか。自分に訴えるものがあるというのは大事な事かなと思います。話し合いとか自分の意見を言ったりディベートするのは、今までの考え方でいうと地理だったら地名を覚えるとか、歴史なら出来事や人物や年号を覚えるけれども、公民は、1つの社会的な出来事に対して自分たちはどんな考えを持っているかということについて、みんなで話し合う機会は多くとれそうです。また、中2、中3になると、発達段階としては社会のことにかなり目が向けられるようになり、考えもお互いに深められるので、先ほどの「主体的な活動を促すような」ということでは、平井委員の質問の討論や話し合いなどの扱いがもっと大きくなって、“このことについて討論してみましよう”というのが、先ほどのマークが出たら、“1つの社会の問題に対してそれぞれの立場で意見を出して討論してみましよう”というつくりになると、もう少しいいかなと感じて見っていました。

○岡部委員 今のお話にも関連するのですが、私たちの生活には大変かかわりの深い教科書だと思います。扱う分野も大変広いわけですが、中学生にとってわかりやすいテーマを設定して、自分だったらどうするかというのを考えられる構成になっているものがよいと思っています。

それから、公民の勉強は地理的な学習や歴史的な学習をある程度踏まえた上で、と思っているのですが、中学を卒業したらひとかどの発言ができる人間になってほしいという願いが込められた教科書なのかなと私は思います。そういうことで、社会人として基礎的な教養が身につくものがよいという視点で選択しました。

○伊藤教育長 18歳になれば選挙権があり、夏の参院選挙からは子どもたちも18歳で投票できるということなので、そういう意味からすると考えさせられますね。

○海野委員 本当にどの教科書もすばらしい内容だと思います。子どもたちがこれから社

会に出て立派な人間になるように成長する最初の段階での一般的常識を養う教科書で、さらに自分たちが積極的にどうやって社会にかかわっていくか、どのように参加できるかということを考えさせる教科書だと思います。

そのために私が選んだのは教出ですが、その中で、「言葉で伝え合おう」ということでシミュレーションとかプレゼンテーション、ポスターセッション、レポートの作成という段階を置いて、そういうテーマで学習のページが設けられている点が、考える、問いかけるものになっていて、よいかと思います。

○松樹委員 私も先ほどお話に出ていましたけれども、これを見て社会の基礎を学ぶところと、それに対して自分が現状の中でどういう意見を持つか、ディベートとかいろいろな意見の中で多様化を感じたり、いろいろな意見を尊重したりすることを学ぶ分野だと思っています。その中で、私は現状の社会状況を多く反映したといいますか、もっと身近な話題の中でやりとりができるような教科書がよいと思いました。

また、先ほどグラフと図のご意見が出ていましたけれども、基礎になりますので、グラフや図、写真が多ければよいと言っているわけではないのですが、効果的に配置されている教科書もありましたので、私はそういう教科書が一番よいと思っております。

○伊藤教育長 効果的かというと、バランスよく配置されているのがよいということでしょうけれども、余り少なくても資料としては判断の材料にならないということがありますよね。

○平井委員 まず、小学校で学んできた子どもたちが、この教科書を見て、「公民」という言葉を初めて聞く。国語や、算数は数学に変わるけれども学んできて、一体何を学ぶのだろうと、きっとわくわくしながら教科書を開くのではないかと思います。そんな感じで私も見ていって、公民で一体何を勉強するのといったときに、各会社それぞれに、こんなことを学ぶのですよということは巻頭等に載せてくださっています。教育出版は割と丁寧に1、2、3という項目で、公民で学ぶ内容とか具体的な学び方とか公民のノートづくりが記載されています。初めての子どもたちにとっては、新しい教科なので、こういうことも必要ではないかと感じます。中身的にはどの会社もそんなに変わりはないと思いますので、そういうちょっとした配慮のところ、私は前から言っていますように、小学校とのつながりを大事にしてあげたいなと感じています。

文言の最後のほうに、学習を終えるころには、自分なりに答えられるようにともに学んでいきましょうというところがあるので、一緒に学びながら、その都度その都度、自分の

思いを文章や言葉にして表現できるという学びをしていってくれたらよいと思っています。

○伊藤教育長 今さまざまな意見で、私の感覚だと公民の教科書は地理、歴史とは違った意味の捉え方ができて、キャラクターが余り気にならなくなる。それがナビゲートしても共感できたり、同じぐらいの年の人が考えられるような感じがします。それから、ここまで来ると、何回も出てくる会社はその会社の特徴が見えてきたので、それについて、どれが子どもたちに適切かなと考えているところでございます。私は決めましたけれども、皆さんはよろしいですか。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 決)

(東書3票、教出2票、清水0票、帝国0票、日文0票、自由社0票、育鵬社0票)

○伊藤教育長 結果、社会(公民的分野)につきましては、最多の3票を得ました東書を採択することに決定いたします。

それでは、ここで、「暫時休憩」といたします。

(休 憩)

○伊藤教育長 それでは、定刻になりましたので、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

初めに、傍聴の方々に説明していませんでしたが、私ども定例教育委員会の会議資料については閲覧という形が基本ですので、それを回収させていただきます。皆さんの中にはメモをとられていて困るという意見がありましたけれども、そのような形で進めさせていただきますので、ご了承ください。午後の分については、メモ等は自由でございますので、別のものにとっていただければありがたいと思っております。よろしく願いいたし、おわびいたします。

それでは、次に地図について審議をいたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 地図は、東書、帝国の2種です。

東書は、一般図だけでなく主題図や写真、グラフが豊富である。各ページにおける地図と資料が整理され、生徒が扱いやすい工夫がされている。各ページの地図に使われている

色の濃淡には目に優しい配色が施されている。巻末に「都道府県の産品と名所・お国自慢など」「地形図の比較」「日本の周辺」「都道府県の区分」「旧国名」が掲載され、資料が豊富である。学校からは、基本図・部分図・資料図などが適切に配列されている、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

帝国は、基本図、分布図や写真を丁寧に配置することにより思考力を高める工夫がされている。自然、産業、くらしをベースに、防災、環境、地域の伝統・文化などが記載されている。地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野でも活用できるよう配慮されている。文字や色がはっきりと見やすく、授業における指示が出しやすい。学校からは、基本図・部分図・資料図などが適切に配列されている、統計や各種の資料が最新のもので信頼性があり生徒の発達段階に即しているという意見が多く、圧倒的な支持を得ていた。

この種目については、地理の教科書と同じ発行者のものが指導しやすいが、必ずしも同じでなくてもよいという調査員の意見があった。

○伊藤教育長 それでは、初めにただいまの報告について、質問があればお願いしたいと思います。

○平井委員 採択資料作成委員会では、どのようなことが話題になったか、幾つかありましたらお話してください。

○笠原委員長 2つ話題になりました。1つは歴史や公民の授業での活用について、もう1つは地図の読み取りについて話題になりました。

1つ目の歴史や公民の授業での活用については、歴史上の出来事などに関係した場所や地域を確認したり、環境や防災に関連して場所や地域を把握したりすることに活用しているということでした。

2つ目の地図の読み取りについては、地図の表記以外のキャラクターの記載があり、個人差はあるが、そのことで情報が多過ぎて読み取りが難しいと言う生徒もいるという話が出ました。

○岡部委員 授業を進める先生の立場から、何か意見があったかというのが1つ。それから、生徒には直接聞いていないと思いますが、生徒の立場からどんな意見が出るのかなと思いましたので、お願いします。

○笠原委員長 教員の立場ということで、1つは掲載されているグラフ数は、「神奈川県教科用図書調査研究の結果」によると、東書は56、帝国が77、図や表の数は、東書が266、帝国が299ということで、授業を進める教員の立場からは、資料が多く掲載されている

ほうが、授業に活用できてよいという意見でした。また、現在使用しているものは、構成や色使いに慣れていることから、見やすいという意見もありました。

生徒のほうですけれども、直接聞くことはできなかったのですが、学習する生徒の立場から推察すると、小学校でも現在使用している発行者と同じ地図帳で学習していることから、教員同様、慣れ親しんでいて、問題なく学習に活用できるということが考えられるのではないかと思います。

○海野委員 先ほどの国語と書写と同じように、教科書と同じ発行者のものが指導しやすいということはありませんでしょうか。

○笠原委員長 先ほどの説明で最後に言ったように、地図は2種からの選択ということで、必ずしも地理の教科書と同じでなければ指導ができないというものではありません。ただ、学校からの意見として、地図資料の活用や学習内容との関連性から、同じ発行者のもののほうが、より効果的に使うことができる、また、装丁などが同じような感じできていることから、生徒もなじみが深く使いやすいのではないかという意見は出ていました。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、また5人で協議してまいりたいと思います。

傍聴の方には教科書会社の方もいらっしゃるのですが、関東地方の図が、お隣の座間市は載っているのですが、海老名市が載ってなくて、詳細のほうには海老名市が載っているのですが、ここに海老名と入れるスペースがないわけでもないのに、どうして海老名市は載らないのか。もし海老名市と書いてあったら、もうこれだという気持ちです。あと、後ろの索引も多くあるとうれしいと思うところです。

ただ、教科書は、私も使ったという伝統的なところがあって、例えば私も地図帳は帝国のものずっと使ってきたという見やすさがあります。でも、去年、東書の地図が参入してきた中で、学校意見を去年見たときに、小学校の先生は東書のほうが使いやすいという意見がありました。小学校での地図の活用と中学校での地図の活用の差が出てくるのかなと思うところがあります。そういう意味で、色合いとかは見なれているというのは実際あるのですが、地図自体を社会科の地理と限らず、他教科でどう活用させるかという意義を十分に考えたら、また違った地図があってもよいのかなと思います。2社ということでございますので、どちらかということですが、そういうことを感想で思ってい

るところでございます。委員さん方はどうでしょうか。

○松樹委員 私も今、教育長がおっしゃったとおり、初めに見たときに、自分の海老名というところを探してしまうのですが、載っていないので、ぜひお願いしたいと思っております。もちろんこの地図帳だけで授業をするわけではなくて、歴史だったり地理だったり公民だったり、また他教科でもこれを使うことがあるかと思えます。その中で連携しながら、より資料的だとか、見やすさ、説明しやすさとか、先生の使い勝手のよいというのが私は一番手ではないかと思っております。

○岡部委員 どちらも工夫がされているのですが、見やすさという点から考えました。そしてビジュアル的にすぐれていて、資料やデータが新しくなっているかということのポイントに考えて選びました。

○海野委員 私は先ほどの地理と同じ発行者のものがよいと考えました。

あとは、同じようですけれども、少し色合いが違いますよね。やはり慣れ親しんでいるほうが子どもたちにとっては入りやすいかなという点は感じられました。

内容的なものでは、「地図を見る目」とか「やってみよう」というコラムがあって、関心を高める工夫がなされているという点が感じられました。

○平井委員 どちらの教科書も使っていくにはそんなに差はないと思います。ただ、細かいところを見ていくと、例えば日本全図を帝国は3ページという広いページをとって入っています。こういうような細かいところも含めて、文字の工夫とか資料のところでは太字を使っているところもあります。155ページを見ると、表の文字を濃くしているところもあって、そういうところは、混んでいる表などは子どもたちが見やすいのかなと感じられます。細かいところを比べてみると、子どもたちが使っていくのには、こちらのほうがよいと思いますし、小学校のつなぎもあるので、そのまま地図学習ができていくと思います。

○伊藤教育長 日本全図だと帝国のほうは見開きになっているということですか。

○平井委員 そういうことですね。帝国は3ページ。

○伊藤教育長 領土についても同じように記載があって、尖閣諸島まで入っている。東書は、このほうに南西諸島と琉球列島を使っている。他にご意見などございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 決)

(東書0票、帝国5票)

○伊藤教育長 結果、地図につきましては、最多の5票を獲得しました帝国を採択することに決定します。

次に、数学について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 数学は、東書、大日本、学図、教出、啓林館、数研、日文の7種です。

東書は、社会とのつながりや他教科とのつながりを意識した題材が扱われており、数学が活かされる場면을重視した系統的・発展的な構成である。例題の後の「たしかめ」で基本的な内容を確認し、「問」でその内容を確かなものにするような工夫がある。さらに「問」の横に「もっと練習」があり、各自の進度に応じて取り組む問題も設けてある。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

大日本は、章内の学習の配列が、考えることや活用を主軸とした構成となっている。1つの問題に対してさまざまな解法を提示している。言葉、数、式、図、表、グラフなどを使って表すことや、説明する内容については空欄にことば、数、式などを入れて考える課題が設けられている。学年ごとに文字の大きさが変えてあり、生徒の発達段階を考慮している。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

学図は、各領域の学習の前に「ふりかえり」として、これから学習する章とつながりのある既習事項を確認させ、系統的な学習を意識させている。章末問題が基本、応用、活用と系統的に配列されている。「数学で使われる考え方」として「類推」「帰納」「演繹」を基本に置いている。配色が工夫されていて見やすい。学校からは、内容が生徒の発達段階に即している、数学的活動や表現活動が適切に取り上げられているという意見が多く、支持を得ていた。

教出は、「Let's Try」という学習の準備を促す内容が章の前に記載されており、系統的な学習を意識させる構成である。章のはじめに、「～を学習する前に」が設けられ、その章に関連した既習事項の確認ができるような工夫がある。1年生の2章まで文字が大きくしてあり見やすい。式に読み方がついているなどの工夫が見られる。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

啓林館は、巻末の「広がる数学」で発展的内容を取り扱い、「数学を通して考えよう」では数学が活用できる場面を紹介し、教科書全体が発展的な構成である。基本のたしかめ

は、右端にどの内容の理解がされているかや、関連した教科書のページがあり、ふり返りがしやすい。「Mathnaviブック」は小学校の内容との関連も書かれており、視覚的に見やすく取り組みやすい。学校からは、体裁がよく生徒が使いやすいように配慮されているという意見が多くあった。

数研は、章の中の学習の配列が技能習得を主軸とした構成になっている。各章に高校数学の内容を取り扱っており、数学を発展的にとらえた構成である。「ふりかえり」と「クイックチャージ」を配置し、基礎的な知識及び技能の習得がしやすい。項目ごとに「ここで学ぶこと」として、目標を明示してある。学校からは、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現したり説明したり伝え合ったりする活動が適切に取り上げられているという意見が多くあった。

日文は、見開き2ページで1つの単元になるように配慮しているため、1時間の授業ごとに進める内容の確認がしやすく、教師や生徒両方に扱いやすくなっている。資源ゴミの回収、自動車の燃費に関する問題や防災教育、福祉に関する内容を数多く取り入れており、身のまわりのことがらと関連付けた素材を取り上げている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、まず報告についての質問があればお願いします。

○平井委員 事前に各会社のものを見させていただいて、それぞれ教科書に工夫がされていると思いますが、どの教科もそうですけれども、生徒が主体的に学習を進めていく視点から、何かそれぞれのものがあればお話をいただけたらと思います。

○笠原委員長 主体的に学習を進めるということで行くと、どの教科書でも教科書の巻頭に教科書の使い方の説明がまずあります。それから、学習を進める上での課題、考え方、振り返り、まとめ、発展などをそれぞれの教科書の工夫でマークを設定して、主体的に学習が進められるような構成になっています。特に第1学年の教科書では、数学へといざなう文章が記述され、保護者宛の記述があるものもあります。また、小学校算数の振り返りや既習事項の確認がどの教科書にも記述されています。

さらに、学習の仕方として、学び合いの仕方、ノートの取り方についての説明があり、文中には課題や疑問、考え方のヒントなどがキャラクターの吹き出しにより掲載されています。

そのように、どの教科書も生徒が主体的に学習を進められるよう、さまざまな工夫がされていると思います。

○松樹委員 海老名市の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえての話題が何かありましたでしょうか。

○笠原委員長 このことについて、採択資料作成委員会では特に話題としては出ておりませんので、事務局からもし説明があればお願いしたいと思います。

○教育指導課長 平成26年度の全国学力・学習状況調査の分析で本市の中学校の結果ですけれども、「数学的な事象についてわかりやすく説明する力」に課題がありました。課題を解決するためには、学習の中で「数学的に説明し伝え合う活動」を展開する必要があります。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、数学の13ページに、「数学的に説明し伝え合う活動」の教材数が載っておりますが、3年間の合計で東書が92、大日本が63、学図が125、教出が112、啓林館が56、数研が50、日文が84となっています。

○伊藤教育長 教材数でいうと、「数学的に説明し伝え合う活動」というのは、みんなで話し合ったり伝え合ったりする場面の活動の教材として幾つかというのが県の調査ですか。

○教育指導課長 はい、そうです。

○伊藤教育長 随分差があるね。例えば東書は92、大日本は63、学図は125で、100以上のものと、啓林館が56とか数研が50というのがあるけれども、調査として教材数はそう出ているということですね。

○教育指導課長 はい。

○伊藤教育長 わかりました。

○海野委員 学校意見に特筆すべき点はありましたでしょうか。

○笠原委員長 どの発行者も工夫されて、それぞれよいところがあるということでした。数学的活動を展開するための題材が多く取り上げられている、小学校算数との学習内容のつながりを考えながら学習が進められるような配慮がなされている等々の意見があったのですが、一方で、全体的に内容が盛りだくさんで、スペースが少なく詰め込み過ぎているという印象を受けたというところもありました。その視点からいうと、現在使用している教科書については、内容量が適切で、現在の生徒の実態に合っているという意見でした。

○伊藤教育長 詰め込み過ぎているというのは、確かに見て、問題がたくさん入っていたり記述もあって、生徒たちはどういう印象でこれを受けるかというのはあるでしょうね。

ほかには報告に対する質問はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、また5人で協議したいと思います。

○岡部委員 私は数学が得意ではなかったのですが、特に連続性のある教科なのかなと思っています。学年ごとにらせん状に上がっていくような連続性がよく保たれているかどうかを選ぶときのポイントの1つにいたしました。

それから、もう1つですが、小学校から中学校に行くときに数学の嫌いな子が増えるという聞いたことがあるのですが、本当でしょうか。個人差がありますかね。これがずっと頭に残っているのですが、小学校と中学校の教科書にギャップが生まれにくいような工夫、例えばノートのとおり方等が丁寧に書いてあるものがよいのかなと思いました。

○伊藤教育長 嫌いが急に増えるということですかね。

○岡部委員 私もそうでした。

○伊藤教育長 見ていると、ほとんどの教科書が巻頭にノートのとおり方について、学習の進め方も丁寧に説明してあるし、本当に至れり尽くせりだと私は思います。

○松樹委員 私も今、岡部委員がおっしゃったとおり、小学校時代、中学校3年間もそうですけれども、らせん状に階段を上がっていくように積み重ねだと思っています。大切なのは、前の内容をしっかりと振り返って反復し、また、その中でも基本が確認できるような教科書がよいのではないかと思います。配色の観点ですが、非常に見やすい教科書もあり、中にはページをあけると数字よりも色に捉われてしまうような教科書があったような気がしております。そんな観点で私は選ばせていただきました。

○伊藤教育長 色とか見やすさの工夫が、逆に数字という部分から外れしまうこともあるのではないかとということですか。

○松樹委員 ほかのところに目が行ってしまいますね。

○海野委員 私も先ほど笠原委員長がお答えになられたように、学習に役立てるさまざまな工夫が各教科書ともなされていると思います。振り返り、まとめ、発展など、それぞれ工夫されて、子どもたちのためにこの教科書がつけられているのだなということをつくづく感じさせられました。その中で私が選ばせていただきましたのは、章の導入の中で、わかりやすい問題を通して関心が高められるように各章に入っていくように工夫されている教科書があったので、なるほどと思いました。

それから、その教科書ですが、「さらなる数学へ」というコラムがあって、興味深い内容が盛り込まれていて、子どもたちが数学を好きになるきっかけになってほしいなという

感想を持ちました。

○伊藤教育長 導入は簡単な問題から入って、ある程度理解して、その後発展のものを扱っているということですね。

○海野委員 そうです。最初にこういうふうに入ってから、次に、式の計算という感じで入っていただけますね。

○平井委員 小学校とのつなぎで、一番最初に文字式が出てきますけれども、そこをどんなふうに展開されているのかというところを私は見ました。先ほどお尋ねしたのですが、私自身が1年生になったときに主体的に自分で勉強するという点から見て、どういう導入がよいのかと思ったとき、数研や大日本の導入がよいと思いました。マグネットを使ったり、角砂糖と重りとか、そういう点ではわかりやすい。ストローを使って正方形や三角をつくるというところがあるのですが、子どもの理解度とか先生の指導の仕方ではそれは十分成り立つと思います。私の今の状況の中では、先ほど挙げた2社が自分の中ではしっかりとくるかなという感じがしました。

ただ、ずっと紙面を見ていって、自分がこの教科書で学んでいくとなったときに、きちんとした説明があって、問題を解決していくときには、学校図書がすごくすっきりしていて、流れがきちんとしていて、割と自分の中で学びができていくのではないかと感じました。つくり的にはどの教科書もそんなに変わりはないので、自分の感覚だけで選ぶというのもどうかとは思いますが、今まで使ってきたというところも含めると、そういう視点で選んでいきたいと思います。

○伊藤教育長 数学の楽しさは、最初に問題が解けて正解が出ると楽しかったりもするし、今、小学校では話し合い活動とか学び合いにかなり力を入れて問題解決を進めようということがあります。そういう中では学習の進め方で、ある教科書は話し合いや発表などを通して自分の考えを高めましょうという紹介があるので、それはそれで1つの方法で、今後、この数学の教科書をどのようにとなったときには、もう少しみんなで話し合ってみましょうとか、そういう多様な学習の仕方が出てくるとよいと思います。

○松樹委員 感想めいた話で申しわけないのですが、啓林館は別冊がついているのですが、中の内容と似通っていて、家に帰ってから勉強したり、いろいろな中で活用もできるのではないかと考えもありますし、なぜこれを別にしたのか、中に入れ込んでもよかったのかなと思いました。現場の先生が流れの中で使いづらい部分が出てくるのかなと私は捉えております。

○伊藤教育長 用途という中でいうと、どんな用途でこれを活用するか。答えがこっちに載っているほうが便利だったりもします。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 択)

(東書0票、大日本0票、学図4票、教出0票、啓林館1票、数研0票、日文0票)

○伊藤教育長 結果、数学につきましては、最多の4票を得ました学図を採択することに決定します。

それでは、次に理科について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 理科は、東書、大日本、学図、教出、啓林館の5種です。

東書は、各内容の分量とその配分が適切に構成されている。実験観察における基本操作の記述が丁寧で、結果の処理方法や考察のまとめ方への例示も適切である。文字の大きさ行間・書体などにユニバーサルデザインへの対応が見られる。写真や図などが多くあり、生徒がわかりやすい内容である。学校からは、様々な面で生徒の実態に合っており、思考力・表現力の育成にも配慮されているという意見が多く、圧倒的な支持を得ていた。

大日本は、目的意識を持って観察・実験に取り組めるよう、指示が簡潔であり結果の整理から考察までの流れがわかりやすく表記されている。探究形式の資料が豊富で、興味・関心を引く発展的な話題が掲載されている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられている、内容の程度や分量が生徒の発達段階に即しているという意見が多くあった。

学図は、各単元に入る前に、既習内容を問題形式で確認する方法がとられている。学習内容と職業や日常生活との関連を示すなど、科学を学ぶ意識や有用性が実感できるようになっている。話し合い活動の充実に関して、積極的に実践しやすくなっている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられている、内容の程度や分量が生徒の発達段階に即しているという意見が多くあった。

教出は、実験・観察に必要な情報や資料が巻末にまとめてあり、必要に応じて活用できるように工夫されている。「基礎・基本問題」、「活用・応用問題」、「総合問題」と段階をふまえた問題が用意されており、学習内容の活用ができるように工夫されている。本文も含めて、情報量が豊富である。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に

取り上げられているという意見が多くあった。

啓林館は、文章が明確に表現されており、読みやすく内容が理解しやすいように工夫されている。教科書は読んで理解することに力点を置いた本冊と、書いて理解することに力点を置いた別冊で構成されている。「学習のまとめ」などで青色シートを使ってくり返し復習し、学習内容の定着を図ることができる。学校からは、基礎的・基本的な内容と発展的な内容、自主的・自発的な学習の取り扱いが適切であるという意見が多くあった。

○伊藤教育長 先ほどから他の種目も報告を聞くと、全てよいことが報告されるので、逆にこの辺が問題だという報告がない。そういうシステムではないのですけれども、そう思うところですよ。

まず、報告についてご質問等ありましたらお願いします。

○岡部委員 別冊の話が出ましたが、別冊のある教科書が先ほどもあったのですけれども、これについて採択資料作成委員会での意見はどんなものだったのでしょうか。

○笠原委員長 先ほどの説明のとおり、書いて理解することに力点を置いた理科ノートが別冊でついているところがあります。これについて、採択資料作成委員会では特に意見はありませんでした。ただ、他の教科でも別冊のついているものは先ほどもあったのですけれども、この場合は、生徒たちに自分のノートがあつて、それをまとめることも大切な学習活動であることから、便利ですが、必ずしも別冊でなければならないということとは言えないと思います。また、教員からは、生徒は多くの教科書や教材を自己管理することから、中にはなくしてしまう生徒がいるのではないかという心配の声が聞かれました。

○伊藤教育長 去年、生活科だったら、場所の違うところにフィールドワークに行くのに、この重たい教科書を持ってフィールドワークには行けないけれども、こういうものがあつたらフィールドワークには便利かなと思うところがあるので、どのような活用の仕方というのはあると思いますが、ほかにはどうですか。

○平井委員 理科学習は資料が結構多いのですが、資料の見やすさやわかりやすさという点で、採択資料作成委員会では何か意見は出されましたでしょうか。

○笠原委員長 先ほどもありましたけれども、各教科とも写真やグラフ等の資料が多く掲載されて、また、見やすくわかりやすい提示の仕方を工夫されていると思います。採択資料作成委員会では、学習内容が充実する中で、授業の中で全ての資料が扱われるわけではないけれども、資料が多くあることで生徒の興味関心を高めることができ、それが主体的な学習につながっていくのではないかという意見がありました。

○伊藤教育長 どの会社のものを見ても写真がきれいで、この見開きの写真はすごいですね。

○松樹委員 各教科書会社とも学習の順番に違いが見受けられると思うのですが、海老名市の生徒の実態に即しているかという観点の中で、学校でどのような意見があったのか、ございましたら教えていただければと思います。

○笠原委員長 先ほど説明したとおり、現在使用している教科書については、学校意見として圧倒的な支持がありました。実験・観察の方法が明確に丁寧に示されて、写真や図が多く掲載されていることが、現状の生徒の実態から見て適切であるということでした。なお、教科書のタイトルに教科名である「理科」を明記してほしいという意見も学校意見の中にはありました。

○伊藤教育長 時間割には「理科」と入っていて、教科書は「サイエンス」を持ってきてとか、「新しい科学」とかなので、端のほうに「理科」と書いてあるとよいかも。しれない。「中学校理科用」とは書いてある。それは全然違った意味でね。

ほかに質問はありますか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問等もないようですので、採択に向けて協議をしていきたいと思えます。私のほうからまた意見を言わせてもらいます。

理科についてですけれども、これだけの教科書があって、現行のものは東京書籍を海老名は使っています。その前は啓林館を使っていたと思います。私は私できちんと見て分析はするのですけれども、どうしてこれがよいのかなと思うと、年代によって差が見えてきます。例えば今、学校現場は若手教員が増えています。若手の教員たちは、どちらかというと毎時間の授業に四苦八苦する中で、現行の東書の教科書がすごくわかりやすいと言います。先生たちもわかりやすいというのは、子どもたちもわかりやすい。ただ、先輩の先生たちに聞くと、啓林館が理科っぽくて詳しくてよいというところがあって、教員の年代によっても受け方が違うと思います。それによって決めるわけではないですけれども、ただ、使う側の人たちが上手に使えたほうが子どもにとってはよい結果につながります。そういう意味でいうと、教科書自体がわかりやすいものになるのか、それとも中学校だと教科書は専門的な教科の特性に応じたものでやっていくのかが、今分かれ目に来ているのではないか、それは教員の年代構成によって出てくるのかなというのを、少し今感じました。私なりに知り合いの教員たちに聞く中では、そういう感じでした。これは使いやすい

のですよというのと、これは少し物足りないよ、こちらのほうが理科らしくてよいとかいろいろ意見が出ていて、そういうふうにもなっているとは感じました。

これは私の意見ですけれども、皆さんはどうですか。

○岡部委員 きちんとした意見ではないかもしれないのですけれども、選ぶ際に子どもがもともと持っている好奇心が高められて、理科好きになる子どもが増えるとよいなと思っています。それはどの教科書なのかなという目で見ました。

それから、必要な学習内容が量的にも質的にも十分確保されているのかどうかもポイントとして考えたところです。

○伊藤教育長 わかりやすさと理科の楽しさ、おもしろさはいろいろあると思います。

○松樹委員 私は、見やすさというのは結構あるという気がします。私は東書がよいと思っておるのですが、この単元で、例えば小学校5年生のときに習いましたとか、小学校6年生のときに習いましたよと1文で入っています。あのときに学んだのがこうやって来ているのだというのがわかりますし、振り返りもできるという気もします。また、私が見比べた中では、私の個人的なものなのかもしれないのですけれども、見やすくてわかりやすい、丁寧と思った次第です。子どもたちも、例えば生物とかエネルギー関係とか単元が分かれていて、どこからやっていくかはそれぞれの先生のやり方もあるだろうと思うのですが、次の全然習っていないところを見たときに、今の岡部委員の話ではないですが、少しわくわくドキドキしてしまうような感じの教科書のつくりになっている。どの教科書もそれはあるのかもしれませんが、一番よいと思いました。

先ほど笠原委員長からもありましたけれども、学校のご意見で、私も最初に思ったのですが、理科の教科書なのに何で「科学」なのかなと思っていたのですね。もちろんいろいろな思い入れの中で「科学」と書いてあると思うのですが、タイトルだけで選ぶわけではありませんけれども、もしこれが「理科」となったら、もっとよかったと思った次第です。それは余談話の感想みたいな話で申しわけないですが、私はそのように思っております。

○海野委員 私も理科というのは科学への興味を子どもたちがいかに持ってくれるかというのが一番だと思います。科学の世界に入っていくと、将来博士になるか、科学者になれるかということだと思いますので、いかに興味を持ってくれるかということの第一歩だと思います。そういうことを考えまして私が選ばせていただきたいのは教出ですけれども、単元の入り口に写真や不思議な現象が入っていて、それがとてもダイナミックなので、科

学への興味が高められるのではないかとということがありました。そして、各教科書ともそうだと思うのですけれども、単元の終わりには要点や用語の整理や基本問題、応用問題が用意されていて、とても学習しやすい内容だと思いました。難点はキャラクターが多過ぎるのではないかとというのは感じました。

○平井委員 植物にしても地層関係にしても取り上げ方は各社違うと思いました。その中で、私は特につなぎを見たいというところで、1年生の教科書を重視して見ていたのですが、音叉の勉強では学校図書や教育出版が割と細やかな紙面づくりをしてくださっているのではないかと見ました。実験に関しては、どこの会社もそんなに大きな差はないのですが、紙面構成、紙面の割り付けというところが理科は大きいと思います。どちらかというとなしさが先に立ってしまう中で、特に実験関係とかは周りの写真がすっきりとした形になっていると子どもたちも取組みやすいと思います。

そういう点からいくと、今まで使っていた東書は実験も半ページを使って4枠できちんとなっていて、小学校からやってきているけれども、特に科学関係は危険が伴うので、きちんとした扱いを通して整理されているところがよいと思います。内容によってそれぞれですが、実験のところでは、左のページに余り多くの文言を入れていないというのが、よいと思います。無駄な言葉を省いて必要最低限のものを入れていくけれども、必要などころには多くのページをとって行数を多く入れているというメリハリをつけた紙面構成をしてくださっている点では興味を引くものはあります。

○伊藤教育長 私1人が悩んでいるところですが、本当にわかりやすさと理科らしさを見るところですが、皆さんはよろしいですか。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択いたします。

(挙手採択)

(東書4票、大日本0票、学図0票、教出1票、啓林館0票)

○伊藤教育長 結果、理科につきましては、最多の4票を得ました東書を採択することに決定します。

それでは、次に音楽(一般)について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 音楽(一般)は、教出、教芸の2種です。

教出は、教育基本法に示されている「幅広い知識や教養、豊かな情操と道徳心を培うこ

と」に関連して、我が国及び諸外国の音楽から様々な時代の曲種が取り上げられ、共通教材では日本の歌が掲載されている。歌唱共通教材では、学年の発達段階にあった曲が掲載されている。表現と鑑賞がリンクされた内容となっていて、発展的な学習ができるように工夫されている。折りこみページを用い、学習内容をわかりやすく表現している。文字間、文字の大きさなどが見やすく工夫されている。学校からは、表現や鑑賞の教材が多様な音楽の中から適切に選択されており音楽文化についての理解を深める学習内容が充実している、内容の程度や分量は生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多くあり、支持を得ていた。

教芸は、刺激の少ない色使いで、見やすさに配慮がなされている。教育基本法に示されている「幅広い知識や教養、豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、共通教材は自然を表した写真や作詞者や作曲者の言葉が掲載されている。基礎的、基本的な知識、技能を確実に習得できるように配慮されている。我が国の伝統的な音楽や歌い継がれてきた日本の歌の学習を通して、日本人としての自覚を持つことができるように、内容を充実させている。学習内容が一目でわかるように「音楽学習MAP」が示されている。学校からは、表現や鑑賞の教材が多様な音楽の中から適切に選択されており音楽文化についての理解を深める学習内容が充実している、基礎的・基本的な内容と発展的な内容、自主的・自発的な学習の取り扱いが適切であるという意見が多くあり、支持を得ていた。

○伊藤教育長 それでは、報告についての質問をまず受けたいと思います。皆さんのほうからありましたら、お願いします。

○松樹委員 内容に扱われている楽曲について、採択資料作成委員会では例えばどんなことが話題になったか教えていただけますでしょうか。

○笠原委員長 3点話題になりまして、扱われる楽曲による指導の違いについて、歌の扱いについて、楽曲に関わる資料についてという3点です。

1つ目の扱われる楽曲による指導の違いについては、教科書によって扱われる楽曲が違うが、それによつての指導の違いはなく、教科書以外にも歌集などで他の楽曲を扱っているので問題はないということでした。

2つ目の歌の扱いについては、どの教科書も同じように扱っていて、オリンピックを背景に扱っている教科書もあるということでした。

3つ目の楽曲に関わる資料については、資料が豊富なほうが生徒にはわかりやすく、そのことが豊かな表現につながり、効果的に学習できるということでした。

○海野委員 日本の伝統的な音楽についての取り扱いはどうでしょうか。

○笠原委員長 雅楽などの日本の古典音楽については、視聴覚教材を活用したり、実際に触れたりして学習を展開しています。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、日本の伝統音楽の曲数について、教出は自分たちで歌うものが4曲、鑑賞するもの81曲、教芸は自分たちで歌うものが3曲、鑑賞するもの89曲となっております。

○平井委員 音楽は情操教育の一環として大事なものだと思っていますが、表現や鑑賞などの取り扱いはどんなふうになっているか、そのあたりがあればお願いします。

○笠原委員長 先ほど説明したとおり、どの教科書も多様な音楽の中から適切に選択されております。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」によりますと、表現を扱った曲数は、3年間で教出が63曲、教芸が65曲で、鑑賞を扱った曲数は、3年間で教出、教芸とも186曲となっております。

○伊藤教育長 ほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問等もないようですので、採択に向けて協議をしていきたいと思えます。さすがに何種目にもなると、皆さん、うーんとうなっていますけれども、簡単に言えばどちらかということですが、確かに2つだけなので、2つを比べるとなると、関係の方々には嫌だなど思うかもしれませんが、教育出版はほかの教科書も写真の使い方がうまいよね。だから、歌のを見ても最初にインパクトがあるよね。人でつづつて、次の人も人でつづるのでありますが、そういうのをすごく上手に使っているなど思っています。ただ、僕は教芸のほうが、自分が習った音楽の教科書に近いような気がするというのは個人的な感想ですが、音楽という感じがします。

歌の指導の中で写真の影響は結構大きいのかどうか。去年、小学校の教科書を見たときに、「ふじ山」にはほとんど富士山が載っていて歌詞があった教科書で、そちらを我々は選択したのではないかと思います。だから、歌で表現するときに、資料教材みたいな写真がどれぐらいの表現にかかわるような効果があるのか。それとも先生が、我々のころは写真がなかったからイメージで、例えば「花」だと教出は大きく花が載り、教芸の「花」は端のほうに少し桜の花がある。桜の花のイメージを歌で歌うときに、頭で見ている桜のイメージが自分で想像できる子どもに、このほうがよいのかどうかとなると、僕は自分の桜があるから、このほうが邪魔ではないかと思う。だから、先ほどから共通するのは、丁寧なものがよいものかどうかとなると、教芸のほうが落ちついて見られるし、子どもたちの創

造力を逆にかき立てるようなもので音楽的なものが出るのではないかという、私なりの比較の意見でございます。皆さんは皆さんでしょうから、自分で決めてくださって結構でございます。

どうですか。私が言うと言にくいですか。今度から最後に言います。でも、これはすごいインパクトですよ。

○海野委員 両紙とも伝統文化にのっとった資料が今回すごく多いと感じられました。和楽器にこれだけ関心が高まって深まる内容を取り上げていただいたのはすごく感謝します。こだわるかもしれませんが、2・3年の教出の巻頭に世阿弥の「秘すれば花なり」とありましたね。世阿弥がここで登場してくるかという、これには感動させられました。中でも「日本の心」の中で「天台声明」が取り上げられているのはとても珍しいことで、これもすごく感動いたしました。

同じなのですね。両方とも取り上げられている内容も素晴らしいですね。

○平井委員 今、音楽の時間が小学校も含めて相当少なくなっています。ですから、その1時間がすごく大事になってきて、個人的には音楽の時間や美術の時間は、情操的な面から本当によいものにしてあげたいというのがあります。どちらの教科書会社もそれぞれの思いでつくられているので、内容的には本当に差がないと思います。ただ、音楽の教科書を開いたときにかき立てるものは、紙面づくりも大きいかなと見るのです。そういう点からいくと教育出版は相当インパクトのある紙面づくりをしてくださっていると思っています。

「エーデルワイス」も両社が取り上げていますが、教育出版は小学校4年生のものを、また中学校に持ってきて、それを英語の歌詞とか混声三部で組み立てているというところがあります。

和楽器については、両社そんなに大きな差はないですし、曲の数から言ったら教芸のほうが多いのです。そういう点では、学校としては、そこも魅力があるのだろうと思います。

少し気になったところが、音楽の著作権というところがあります。その表現が、2社が多少違った書き方をしていると思います。コピーの仕方も著作権の関係で非常に大切になってきていますので、2社が違う形の書き方をしているのです。そのところはどうか。細かいことを私は調べていませんが、そこは両社が違う書き方だというふうに見えました。

全体的には、教芸のほうは中学生らしい感じかなと思いますし、先ほど私が申し上げたように、貴重な時間をかき立てて、子どもたちが本当に全身で表現できるものを与えてくれるというのには、教出のほうも魅力を感じるものです。

○松樹委員 私はどちらもすばらしく、私個人でも読んでいて楽しい教科書だと非常に思いました。音楽は音楽の授業として学校の中で取り入れられているのですが、今、各中学校では合唱コンクールとか合唱が盛んに行われていて、行くたびに我々が心を動かされるような彼らたちの歌唱力というか心のこもった歌は、本当に心を動かされるものがあります。そんな中で、教科ですので音楽というものが基礎になっていくと思うのです。先ほど教育長が、何もないほうがという話もされていたのですが、私は逆に、この歌をどういう内容の中で歌うというほうが、より豊かになっていくのではないかという感じがいたします。そんな観点で両社を比べてみると、教出のほう紙面を開いたときに、その歌のイメージがぱっと広がっていくのではないかと思っています。まだ細かいところもいろいろあるのですが、そういう観点を一番に私は見させていただきました。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙手採択)

(教出3票、教芸2票)

○伊藤教育長 結果、音楽(一般)につきましては、最多の3票を得ました教出を採択することに決定します。

それでは、音楽(器楽合奏)について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 音楽(器楽合奏)は、教出、教芸の2種です。

教出は、ソプラノとアルト、どちらのリコーダーでも学習が展開できるように工夫されている。ギターの学習において、タブ譜(ギター奏法用の楽譜)が掲載されている。リコーダー曲では、新たに学習する運指が楽譜ごとに掲載されている。文字間、字の大きさなどが見やすく工夫されている。学校からは、表現や鑑賞の教材が多様な音楽の中から適切に選択されており音楽文化についての理解を深める学習内容が充実しているという意見が多くあった。

教芸は、音楽一般の教科書と同様に刺激の少ない色使いの中で教科書らしさを大切にま

とめている。各楽器の伝来ルートや歴史、種類を掲載することで、伝統や文化に関する教育の充実が図られている。リコーダー曲では、新たに学習する運指が奏法の学習ごとに掲載されている。学校からは、表現や鑑賞の教材が多様な音楽の中から適切に選択されており音楽文化についての理解を深める学習内容が充実している、音楽に対する感性を豊かにし主体的な学習活動に関して配慮されているという意見が多く、支持を得ていた。

この種目については、音楽一般の教科書と同じ発行者のものが指導しやすいという調査員の意見があった。

○伊藤教育長 報告がありましたが、質問等ありますでしょうか。

○海野委員 器楽で扱われている楽曲について、採択資料作成委員会ではどのようなことが話題になりましたでしょうか。

○笠原委員長 先ほどの説明のとおりで、特に扱われている楽曲についての話題はありませんでした。事務局からもし説明があればお願いしたいと思います。

○教育指導課長 「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、器楽の6ページに器楽の曲数が掲載されております。器楽の曲数は、教出が66曲で教芸が56曲となっています。そのうち合奏曲、二重奏曲については、教出が43曲で教芸が30曲となっています。その他、そこに記載されているとおりです。

○岡部委員 ほかの教科でもありましたが、音楽（一般）の教科書と同じ発行者のものが指導しやすいということだったのですが、その辺の事情をもう少し説明していただけますか。

○笠原委員長 どちらの発行者も関連性をかなり意識して音楽（一般）と音楽（器楽合奏）の教科書を構成していることがうかがえると思います。例えば音楽（一般）で鑑賞した曲のメインテーマを器楽演奏や合奏するという構成になっています。指導する教員としても、同一の発行者のものの方が効果的に指導することができるという話がありました。

○伊藤教育長 学校の指導者は、別々にしたらみんな「えっ」と言うのでしょうか。そのようなことはないですか。他にございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 他にご質問もないようですので、それでは、協議に入ります。意見を出していただきたいと思います。私はまだどうもこだわります。海野委員は自分でお琴をやりますが、子どもたちにもこれに触れてほしいという思いはありますか。

○海野委員 今回いろいろな楽曲が盛り込まれている中で、お琴、尺八、ギターとか、いろいろな楽譜が取り込まれていて、お琴の場合は洋楽の「もののけ姫」とか「こきりこ節」の譜が掲載されています。お琴譜と別に五線譜でも両方取り扱われているということは、洋楽とも一緒に合奏できるということがよくわかってもらえて、お琴だけ特別のものではないということ、たとえ弾けなくても理解して鑑賞してもらえる内容になっているのではないかということを感じました。

○伊藤教育長 子どもたちの体験とかをやっていますよね。

○海野委員 ここで今「さくらさくら」が出ていますよね。子どもたちにもサマースクールで「さくらさくら」を弾いてもらっています。そうすると、「さくらさくら」がこういうふうにあらわされているというのを、琴譜を見ながら今は弾いてもらっているのですが、五線譜ではこのようになっていて、琴譜ではこのようになっていたというのが改めて中学へ行っても理解してもらえる。6年生も結構参加してもらっているんで、それがすごくよいと思います。「さくらさくら」は両方の出版社で取り扱っていただいています。

巻頭と巻末に「With My Heart」で音楽家からのメッセージが書かれているのですが、これは子どもたちの情操教育にすごく配慮されている文が入っているのもよいという感じを持ちました。

○伊藤教育長 これは上手ですね。教出はうまいね。写真がきれいです。きちんと教芸でも載っています。

○海野委員 載っていますね。

○伊藤教育長 教出はどの教科書でも写真の使い方がうまいです。

○平井委員 海野委員からは、ご自身がされている専門的な分野から話されましたが、私は楽器を扱うためにという形で先生方が指導してくださる立場から見ましたので、器楽ということで、写真掲載がすごく多いのですね。お琴だったら合わせ爪とかいろいろある写真の扱いが、同じようなものを載せていても、教出のほうがアングルがよいですね。私などは初心者ですから、そういう形で見てしまうと、ばちの位置とか手の位置とか、向きという部分ではとてもわかりやすい。弦を弾く指の角度などを含めて丁寧に写真掲載されていると見させていただきました。

内容的にも本当に細やかに2社はつくってくださっていますので、どちらもよいと思いますが、学校サイドの指導から考えると、両方一般と器楽が同じもののほうがよいと思います。

○海野委員 音楽（一般）と音楽（器楽合奏）は同じ本ではいけないのでしょうか。

○伊藤教育長 学習指導要領上の扱いの目標で、音楽（一般）と音楽（器楽合奏）と分けることになっていますので、そういう意味で分けています。別冊とかの考えを逆に考えると、1冊の箱の中に2冊入っていても一緒かもしれないのですが、音楽（一般）は1年生と2・3年生の目標が違いますので、そういう意味で、これも含めて3冊になるというのが現状のところですか。他にございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

（挙 手 採 択）

（教出3票、教芸2票）

○伊藤教育長 結果、音楽（器楽合奏）につきましては、最多の3票の教出を採択することに決定いたします。

それでは、1時間ほど過ぎましたので、ここで15分ほど暫時休憩とします。再開を15時10分といたしますが、よろしいですか。それをお願いいたします。

（ 休 憩 ）

○伊藤教育長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、美術について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 美術は、開隆堂、光村、日文の3種です。

開隆堂は、美術文化への関心を育む多様な題材・表現方法の作品が掲載され、生徒の発達段階に沿って基本から応用へと系統的に編集されている。鑑賞学習では視覚的には原寸大・大型図版の掲示、思想的には作品の横に「問いかけ」が設定され、興味・関心を深める工夫がされている。学校からは、表現や鑑賞、美術文化などに係る作品は表現の方法や教材などが多様なものから適切に選択され、生徒が関心や親しみのもてる作品であるという意見が多くあった。

光村は、目次に掲載されている10種類のマークによって、他の教科との関連や幅広い視野での学習活動ができるよう内容が工夫されている。デザインの力で国際社会を明るく平和にする可能性を感じられる図版や作品が紹介されている。また、原寸大の写真は作品理解に効果的である。学校からは、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されている、内容

の程度や分量は生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多く、圧倒的な支持を得ていた。

日文は、鑑賞の能力を養うことができるように、ページの折り方や図版の大きさ、紙質を変えて作品が紹介されている。言語活動を充実させる観点から、話し合いや学び合い等、他者とかかわり合う学習活動を取り入れるように配慮されている。3分冊にすることで分量の均一化が図られている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられている、社会的状況を反映した題材を取り上げ生徒が興味関心を持って学習できるように配慮されているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、報告に対する質問があればお願いいたします。

○松樹委員 各教科書会社を見るとさまざまな題材が扱われていると思うのですが、扱われている題材について、採択資料作成委員会で話題となったことは何かありますか。

○笠原委員長 題材については、どの教科書も生徒が興味関心を持てるようなものを工夫して扱っています。採択資料作成委員会では、このほかに教科書の冊数について、工芸の扱いについて、教科書と作品づくりについての3点が話題になりました。

1点目の教科書の冊数については、学習指導要領の美術の目標が1年と2・3年になっていることから、1年で1冊、2・3年で1冊の2冊のほうが扱いやすいということでした。

2つ目の工芸の扱いについては、どの教科書も生徒の作品を多く掲載しているという点で、大きな違いはないということです。

3点目の教科書と作品づくりについては、時間的には教科書を見て、参考にして、イメージを膨らませ、その後ほとんどの時間を作品づくりに費やしています。絵を描くことが苦手な生徒にとっては、目で見たものをすぐに描くという作業は難しいので、教科書を使って描き方を理解させることが大切になるということです。そういう意味で、教科書の図や写真などの資料は非常に貴重だということでした。

○平井委員 写真や図が貴重になるということだったのですが、その図や写真の掲載に各社工夫が大分見られますが、このあたりのところについて意見等ありましたでしょうか。

○笠原委員長 先ほどの説明のように、教科書の図や写真などは指導する教員にとっても、学習する生徒にとっても学習を効果的に進める上でとても重要であるという意見がありました。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、解説のための写真、図表、挿絵の数が出ておまして、開隆堂が452、光村が703、日文が567となっております。

○海野委員 今説明していただきましたけれども、いろいろな教材について、海老名市の生徒の実態に即しているという点では、学校意見はどのようなようだったでしょうか。

○笠原委員長 先ほど説明のとおり、圧倒的に現在使用している教科書がよいという意見でした。美術という教科の特性もあって、どの教科書も写真を活用して生徒の興味関心を高める工夫が見られますが、内容や分量が生徒の発達段階に即している、体裁がよく生徒が使いやすいように配慮されているという理由で、現在使用している教科書が生徒の実態に合っているという意見でした。

○伊藤教育長 ほかに質問はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問もないようですので、採択に向けての協議をしていきます。

この写真の見開きを見てもすごいですね。先ほどの話だと、美術の時間に教科書の扱いとしては、使う教員たちは、絵画でも何を書かせるとか、彫塑でもどれで彫塑をとるのかによっても違うけれども、教科書は教科書で使っているということなののでしょうか。有名な美術家の作品もあるけれども、生徒の作品もかなり載せてあります。

委員さん方、ご意見はどうですか。学校意見で全て決めるわけではないですけれども、現状の学校意見としては、現行のものが使いやすいということは説明がありました。

○岡部委員 美術の教科書ということもありまして、写真とかレイアウト等の美しいものがよいと思います。表現力とか鑑賞力を育むものを選びたいと思っています。

また、鑑賞力という点では、日本の美といいますか、日本の古典的なものや西洋のものを取り扱いのバランスなどにも注目をいたしました。

○松樹委員 それぞれ見ているとすてきな見開きがあって、私は光村がよいと思うのですが、原寸大の写真が載っているの、なかなか見に行くことができない中、身近に世界の美術を感じられるのが、私はすばらしいと思いました。また、先ほどの検討委員会からのご意見もありましたけれども、図や写真がしっかりと効果的に、また、数も適切に配置されていることから見ると、私は光村がすごく見やすいと思っております。

○伊藤教育長 開隆堂も原寸大につくって、日文が紙の質が和紙のような手触りでしたね。

○海野委員 私も光村がよいと思います。全体を通しての色合いがとても落ちついているように感じられました。美術というのは色彩感覚を子どもたちに養ってもらいたいという

があるので、色合いはすごく大事ではないかと思います。

「特別展示室」の見開きのページに詩が書かれていました。詩と両方で鑑賞できるように工夫されているのは、作品を理解するのに、また別の角度から配慮されているような気がしました。

「うつくしい！をさがしにいこう」という谷川俊太郎の「うつくしい！」という詩が何カ所にも掲載されていて、全部「うつくしい！」の詩ですけれども、それぞれに内容が違い、写真も違って、すごく工夫されているのではないかと、美術学習の目標を達成させることができる内容ではないかと感じました。

○伊藤教育長 国語の光村ですね。

○海野委員 そうです。

○平井委員 まず、私は各社の表紙に圧倒されました。各社の表紙がすごくて、美術は鑑賞が学習の中に入っていますので、どの会社もすごくよいものを表紙にしてくださっていると思いました。その中で、インパクトがあったのは光村の1年生の熊です。1回見ると忘れられない。本当にこれは、どうってことないと言ったら変ですけど、これがまたインパクトがあって、これだけでも子どもたちは鑑賞できてしまうから、私の中では、これがとても印象に残って、この表紙だけでも鑑賞の時間が持てるのではないかという思いを持ちました。

内容ですが、どこも生徒の写真を多く載せていて、作品もよいものがたくさん載っています。ただ、光村は生徒の作品を極力控えて、その分、原寸大の作品を多く載せて、またそこも鑑賞できるようにしていること、それから、作品のいろいろな技法をきちんと載せていて、その中で子どもたちが習得して自分のものにしていくというところはきちんとされていると思います。

小学校で教える図工と中学校に行ってから美術は内容的にも多少違いますし、ある程度高度なものを求められますので、そういう点では、基本がきちんと載せられているのではないかと見ました。

○伊藤教育長 先ほどの報告の確認だと、学校は3冊よりも2冊のほうが使いやすいということで、委員長、よろしいですか。こちらのほうが使いやすいという意見があるということですね。

○笠原委員長 はい。そうです。

○伊藤教育長 どの教科書も道具の使い方とか色づかいを取りあげているので、美術の

資料集を買う学校があるけれども、これ自体で要らないですよ。

○各委員 要らないですね。十分ですね。

○伊藤教育長 中身としては十分なものですよね。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、美術について採決をいたします。

(挙 手 採 択)

(開隆堂 0 票、光村 5 票、日文 0 票)

○伊藤教育長 結果、美術につきましては、最多の 5 票を獲得した光村を採択することに決定いたします。

次に、**保健体育**について審議いたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 保健体育は、東書、大日本、大修館、学研の 4 種です。

東書は、教育基本法に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高める」に関連して、「考えてみよう」では習得した知識を活用する学習活動、さらに「生かそう」では学習した内容を生活に生かし、さらに発展させる内容が取り上げられている。見開き 2 ページを 1 単位時間で学習することを基本とし、そのレイアウトに沿って学習を進めることで、基礎的・基本的知識を習得し、それを活用する力が身につくように工夫されている。学校からは、科学的な理解を深め、思考力・判断力等を育成するために知識を活用する学習が適切に取り上げられているという意見が多くあった。

大日本は、発達段階に応じた記述があり、既習の学習を新たな学習に役立てることができる。「今日の課題」が設定され、その解決につながるイラストや資料が中学生に分かりやすく配置されている。項目ごとに「学習を活かして」を設けており、学習した内容を整理し、今後の生活に生かせるようにしている。図版の配色や写真も多く使われビジュアル的に訴えるものも大きい。学校からは、健康・安全について生徒が興味関心を高め科学的な理解を促すための資料が取り上げられている、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されているという意見が多く、支持を得ていた。

大修館は、学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養う」に関連して、各項目の最後に項末課題「Try」を設け、学んだことを生かして、話し合いや自分の考えをまとめさせる活動が盛り込まれている。振り返りを行い繰り返し学習できるように、各章の終わりに「学習のまとめ」が盛り込まれ、知識を活用する学習も「学びを生か

そう」で取り上げられている。学んだ知識が実生活に生きるよう「Challenge」を設け、学習を深める工夫がされている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

学研は、学校教育法に示されている「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」に関連して「活用しよう、エクササイズ、ウォームアップ」の中で思考判断する課題が設定されている。「探究しようよ」「コラム」については興味を持って学習できるように工夫されていて発展的な内容として取り上げられている。学習内容の振り返りとして「章のまとめ」で用語等の確認ができる。理解ができていない場合は、本文に戻れるようになっており、学習の確認ができる。学校からは、基礎的・基本的な内容と発展的な内容、自主的・自発的な学習の取り扱いが適切であるという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、採択資料作成委員会の報告について質問があればお願いします。

○岡部委員 委員会では、どのようなことが話題になったのか、もう少し教えていただけますか。

○笠原委員長 採択資料作成委員会では、1つは、実技と保健の指導時間数について、それから、薬物についての扱いについて、3点目は、教科書の3年間使用の仕方について話題になりました。

1つ目の実技と保健の指導時間数については、週3時間のうち1時間程度の扱いであるが、実技や保健の指導の継続性から毎週規則的に扱うということはないということでした。

2点目の薬物の扱いについては、どの教科書も同じように扱っていますが、社会的な問題となっている危険ドラッグの扱いについては、教科書によって軽重が見られるということでした。

3点目の教科書の3年間使用の仕方については、学習内容が学年ごとに分かれているものとそうでないものがあり、指導上分かれているほうが計画的に学習しやすいが、そうでなくても大きな問題はないということでした。

○海野委員 ただいま説明いただきましたけれども、食育や薬物などの今日的な健康課題についての扱いについては、どのような意見が出されましたでしょうか。

○笠原委員長 食育については、どの教科書でも「食生活と健康」「食事と健康」「中学校生活と健康」といった学習内容で扱って、その中で食物アレルギーについても扱っていま

す。薬物の今日的な課題については、どの教科書でも危険ドラッグとともに、普段使用している風邪薬などの医薬品について、その正しい使い方について扱っていますが、もっと重点的に扱ったほうがよいという意見も出ておりました。

○平井委員 どの教科書も工夫されて資料が相当出ているのですが、そのあたりについて何かあったらお聞かせいただきたいと思います。

○笠原委員長 委員のご質問のとおり、どの教科書も写真やグラフ、資料が多くて、生徒の興味関心を高めるよう、わかりやすく見やすいように工夫されています。特に4種のうち2種については、A B判という大判になっていることから、写真や資料が見やすくなっています。県の調査でも、資料の数は東書がA B判で260、大日本がA B判変型で252、大修館がB 5判で296、学研がB 5判で299となっています。このことが生徒にとっても見やすさにつながっていると考えられます。学校現場からは、現在使用している発行者の教科書が図や写真と文章のバランスがよいという意見が出ておりました。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問もないようですので、採択に向けての協議をしていきます。

確かにこれを見ると、東京書籍と大日本が少し大きめのA B判で、大修館と学研がB 5判になっています。大修館と学研のほうが資料数は多いということで、厚さがある。見やすさがあって、ここも分岐点に感じています。大判にして写真などで子どもたちにわかりやすくか、保健学習の内容として、例えば大修館と学研については内容がかなり濃くて、それを学習の中できちんと捉えていって保健の学習を進めるのかというのは、今までの教科書の流れでも2つありました。学研、大修館は、これまでの経過を見ると保健体育にはかなり精通したところではないか。そういう発行者がこのような形で、東書とか大日本は大判にして子どもたちにわかりやすく、見やすくしている教科書であるという感じがします。

あと、薬物について話題になったのですけれども、脱法ドラッグは今、危険ドラッグと言っているけれども、合法とかハーブとかは、その時点のものですから、こういう記載で全てやっていますね。大修館は1枚を使って「違法でなければ薬物を使いますか」という扱い方をしているものがあります。どこも扱ってはいるのですけれども、今後、保健等も生活の中で今日的な課題がありますので、それをどう扱っていくかは1つのポイントには

なると思います。

○松樹委員 保健体育ですが、もちろんコマ数が少ないというのもありますし、実技と併用して授業を進めていくという内容の中で、大ボリュームの中を事細かに伝えてやっていくのは、時間的な中で先生たちがご苦労されるところではないかと思います。その中で内容を見させていただいて、紙面の構成が1章から4章構成とか、東書だけが1、2、3年生という構成です。初めはどうかと思いつながりながら見ていたのですが、コマ数が少ない中であれば、1年生のときはしっかりこれを授業として教えていく、2年生のときにはこれを教えていくと明確になっていたほうが、教わる子どもたちもわかりやすいし、教える教員の方も、この部分は1年生の中で子どもたちにしっかりと伝えていくという中で、私はわかりやすいのではないかと思います。中身に関しても読みやすいと思いました。

○伊藤教育長 3年間を通しての保健体育科ということで学習計画を立てますけれども、学年、学年でやったほうがわかりやすいです。

○海野委員 内容的なことですけれども、自然災害の脅威が最近の話題になっておりますけれども、そのことが近年の写真を通して掲載されていてわかりやすく説明されている点がよいと思いました。どこでも熱中症は取り上げられていますが、災害の脅威について、写真も掲載されているところがよいと思います。

私は大日本を選ばせていただきましたが、ほかの教科書にない面が掲載されているところが多々ありましたので、そこが選ばせていただいた理由です。子どもの発達に関してもほかの教科書と違っているところが多々見られました。

○伊藤教育長 海野委員は大日本のほうがよいですか。

○海野委員 はい。

○平井委員 保健体育は教える内容がどこの会社も同じなので、どんなふうにそれを扱うか、先ほども軽重があるということも出されていましたが、どんなふうにそれを紙面の中に入れていくか、子どもたちにどういうふうに学ばせていくかというところだと思います。私は生命のところを見てみたのですが、図の中で男女を一番平等に扱っているのは大日本かなと見ました。ですから、そういうところではよいと思います。東京書籍もそういう部分ではよいと思いますし、そこに文言がつけ加えてあります。ただ図だけではなくて、東京書籍は、自分を大切に異性や体や心の理解、性に関する適切な態度を身につける、大日本では、異性を尊重し、未来の世界を担う一員として成長できるようにという文言をつけ加えてくださっています。ですから、ただ図だけではなくて、「お互いを尊重

し」という部分では、どんなふうに取り上げていくかというところはあるのですが、そういう一言を大事にしていきたいという思いをもちました。

それから、先ほど海野委員から出た災害については、どこの会社も取り上げていますが、大日本が一番大きく津波を出しています。そのときの行動と体験をという形で、シンプルな扱いだと思うのですが、このインパクトがすごく強い。被害状況を、一目で視覚を通して子どもたちが心に受けとめるという点では、こここのところも大きいかなと見させていただきました。

○伊藤教育長 大日本の表紙は女子生徒が1人です。そういうことなのかなと思います。ほかは複数です。

○平井委員 そうです。一番気になるのは表紙ですね。意図は何かあるのだろうと思うのですが、ここには会社なりで何か求めているものがあると思うのですが、何か聞いてみたいところがありますね。

○伊藤教育長 これについても私がリサーチした中では、大日本は前も使っていて、小学校は保健ができたばかりのころは光文を使っていて、若い先生たちは東書が使いやすいと言います。ある程度の方々になると、前に使っていた大日本のほうが使いやすいと言うので、年代のことも自分でもいろいろ考えてみようかなと思っています。これは単なる感想ですけれども、教科書の次の採択には学習指導要領が新しくなりますので、その採択にはまた違った意味で、教科書についても我々も考えなければいけないと思っています。ところでございます。 それでは、他にございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

（挙 手 採 択）

（東書3票、大日本2票、大修館0票、学研0票）

○伊藤教育長 結果、保健体育につきましては、最多の3票を得ました東書を採択することに決定します。

次に、技術・家庭（技術分野）について審議を行います。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 技術・家庭（技術分野）は、東書、教図、開隆堂の3種です。

東書は、「技術の匠」をはじめとし、実社会と技術のかかわりが随所に掲載されており、教育基本法で示されている「伝統と文化」「職業及び生活との関連を重視」に関連す

る教育の充実を図っている。巻頭の「ガイダンス」で3年間を見通した内容を学ぶことで興味関心を持たせることができる。巻末の「防災手帳」で災害への備えや防災・減災の技術を紹介している。判型がA B判となり、紙面に余裕ができ、ふりがなや文字の大きさ、行間、間隔に余裕があるため見やすい。学校からは、知識、実習、体験的な学習活動が適切に取り上げられている、生徒の実態からみて適切であるという意見が多く、圧倒的な支持を得ていた。

教図は、教育基本法に示されている「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度」に関連して、現代社会を支えるテクノロジーに対して環境や社会などの側面から評価し活用する題材が取り上げられている。「基礎技能・知識」として基礎となる技術や習得の機器の安全な利用方法を学び、「まとめ」と「章末問題」では、生徒が知識を自学自習できるよう構成されている。現代社会の中でも先進技術を示す事例が、図とともに掲載されている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

開隆堂は、実践的・体験的な学習活動と基礎的・基本的な内容を区別し、編集されている。図面による表記が多用され学校教育法に示されている「基礎的な知識及び技能を習得」できるような題材を実習例とし、豊富に配置している。学校教育法で示されている「主体的に学習に取り組む態度」に関連して、各編の「学習のまとめ」や「探究」で、社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術のあり方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価をし、主体的に活用しようとする態度が育めるよう構成されている。学校からは、知識、実習、体験的な学習活動が適切に取り上げられているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明についての質問をまず受けたいと思います。お願いします。

○岡部委員 社会生活との関わりという点で、各教科書とも工夫がされているわけですが、採択資料作成委員会ではこれについてどのような意見がありましたか。

○笠原委員長 このことについては、技術・家庭科の学習を社会生活に生かすということで「防災手帳」のことが話題となりました。「防災手帳」を学習の導入として活用することも有効であるという意見がありました。材料と加工、エネルギー、生物育成、情報に関する技術と学習内容が生活に関わるものであり、教科書を活用して実生活に生かせるような指導に力を入れる必要があるという意見が出されました。

○平井委員 技術分野での情報教育の取り扱いについて、少し説明をしていただければと思います。

○笠原委員長 情報教育の取り扱いについては、各教科書とも大体同じような扱いです。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」では、情報に関する技術を取り扱っているページ数が示されていて、東書が64ページ、教図が60ページ、開隆堂が68ページとなっております。

○伊藤教育長 そんなに変わらないということですね。皆さん60ページ台で扱っているということですね。

○笠原委員長 はい。

○松樹委員 内容的にもそうですが、海老名市の生徒の実態に即しているかという点で、できれば学校意見などありましたら教えていただければと思います。

○笠原委員長 学校からは、内容の程度や分量が生徒の発達段階に即して適切であるとか、他教科との関連が必要に応じて取り上げられている、生活との関わりについて理解が深められるように配慮しているなどの理由から、現在使用している教科書が海老名市の生徒の実態に合っているという意見が出されておりました。

○伊藤教育長 他には報告に対する質問はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、5人で協議に入ります。意見等があったらお出しください。

○岡部委員 この技術というのは、この二、三十年で内容的には大きく変化をした教科かと思います。そうした中でも、授業時間数は相変わらず少ないという中、現場ではご苦労されているのだと思いますが、日本の物づくりで積み重ねてきたノウハウとか歴史等を紹介して、勤労意欲や職業観の育成に力を入れている教科書を選びたいと思いました。

もう1点は、平井委員のご質問にも関係するのですが、コンピューターのことです。今、ボリュームが4分の1弱ぐらいずつ各教科書で扱っていると思うのですが、いまやコンピューターはあらゆる分野に入り込んでいる基本的なインフラとも言えるかと思えます。そして、この世界は目まぐるしく進歩しておりますので、この教科書で教わった内容が4年間もつのかなと思いました。そして、内容的にも大変ボリュームがありますので、時間数の少ない技術の中で組み込んでおくのは無理なのではなかろうかと感じました。これは教科書を選ぶのと少し外れるのですが、現場の先生方はどういうふうにご覧になっているのかと思った次第です。

○伊藤教育長 学校現場では、この教科書の扱いのとおり、例えば伝統的に木工で何か物をつくるとか、電気で何か物をつくる、そういう物づくりは技術・家庭の特に技術としては実際の作業としては扱われるのですけれども、それ以外のさまざまな知識等についても身につけなければいけない部分がありますからね。震災以降、技術の中でそれが活かされるような防災についても1つの視点になってくると思います。実際は授業で何か物をつくと、週1時間しかありませんので、長い間かかって子どもたちは技術室に通って、また1回置いておいてというのを繰り返しているような姿があります。その辺が教科書とかかわってうまくできればよいと思います。

○松樹委員 今もご意見が出ていましたけれども、時間が少ない中で技術という科目をやっているかなければならない中で、先生たちもご苦労で、子どもたちも慌ただしいと思います。その中で、習ったことを実社会と結びつけて、これがこういうことで実社会でこうつながっている、というかわり合いが持てるような教科書が私はよいと思います。これはこれというぶつ切りではなくて、実社会と結びつきができるような内容が出ているような教科書が私はすてきだなと思います。

また、先ほど出てきた防災の観点ですが、私はこの「防災手帳」は非常によいと思います。この海老名も、地震がいつ来てもおかしくないという状況にありますし、常に身近に技術があるという中で、先ほどの保健体育とももちろんリンクをしていくのだと思うのですが、知識、技能を身につけられるという内容であってほしいと思っております。

○海野委員 この教科書はA B判とサイズがまた違うわけですけど、A B判はサイズが大きいせいか、全体が見やすく、わかりやすいということが実感させられます。

それから、今、松樹委員もおっしゃったように、巻末に学習したことを生かせる「防災手帳」がついているということは、ふだんの授業にも使えますし、今後、将来においてもそれを生かすことができるのではないかと思います。

あと、「あなたの夢が未来を変える」という章があるのですけれども、技術を学ぶことによって将来が変わるかもしれない、あなたの技術によって将来が変わるかもしれないということを伝えている場面があるということは、あなたに期待しますよということで、技術をこれから磨いてくださいということを教えられているような気がして、とてもよい章だと思いました。

○平井委員 本当にいろいろな教科も悩みましたけれども、この技術分野は自分の中に入れていくというか、こういう学習をするということで、すごい内容だなという感じで受け

とめました。どこの会社も、読めばそれなりの内容でつくられていて、本当にすごく考えさせられてしまったところもあるのですが、デジタル的には東京書籍は丁寧につくられているところと、私は生物に興味を持ち植物のところは実生活にすぐ役立てられるところでもあるというふうに見させていただきました。紙面が見開きでわかりやすくつくられていて、写真とその写真の説明書きがきちんとされているので、そういう点ではよいと思います。どの会社も項目ごとにピンク、オレンジ、グリーンとか、枠に色を変えて、そういうところも各社で工夫がされているので、内容的にはすばらしいものができているのではないかと思います。

○伊藤教育長 扱う内容も増えてきているけれども、子どもたちはこの教科書のどれかを渡されたときに、自分の目で追って、授業では物をつくっていてもこれは持ってきますので、そのときに合間に見ながら、このことはこうなのだなと見たりする、そういう意味の役割も技術・家庭とか保健体育にはありますね。他にございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 択)

(東書5票、教図0票、開隆堂0票)

○伊藤教育長 結果、技術・家庭（技術分野）につきましては、最多の5票を得ました東書を採択することに決定します。

それでは、技術・家庭（家庭分野）について審議をいたします。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 技術・家庭（家庭分野）は、東書、教図、開隆堂の3種です。

東書は、基礎・基本的な知識と技術を重視し、生徒が主体的に取り組めるよう「基礎技能」のページを設け、実践的・体験的な活動につながるよう工夫されている。ガイダンスの内容が充実しており3年間の見通しを持って授業に取り組めるように考えられている。判型はA B判で、見開きの構成により実習の流れ等が見やすくなっている。小学校の学習を振り返り既習事項と結び付けて学習できるように工夫されている。関連箇所へのリンクや他教科との関連がわかりやすく、学習に関連したQ & Aが、ページ下に掲載されている。学校からは、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されている、内容の程度や分量は生徒の発達段階に即して適切であるという意見が多く、支持を得ていた。

教図は、学習内容に関連した実習例が多く、資料の説明が丁寧である。また、失敗例な

ども取り上げ、実践で生かせるよう工夫されている。身近なアニメ作品やイラストが多く用いられ、生徒が親しみや興味を持って学習に取り組めるように考えられている。各章に自立度チェックがあり、現在の自分を振り返り、学習のめあてが立てられるように配慮されている。各内容の導入時に、クイズなどを取り入れて興味関心を高め、まとめでは「学習の振り返り」を設けて理解できるよう工夫されている。各内容の最後に「生活の課題と実践」が配置されている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

開隆堂は、話し合いの場面が多く設定され、言語活動の充実が図られている。失敗例を示して解説することで、生活の中で課題解決に取り組む姿勢が育てられるよう工夫されている。「基礎技能」において、写真が効果的に使用され視覚的にわかりやすく表現されている。職業のプロからの視点やメッセージなどを取り入れ、職業観を養い、キャリア教育の充実が図られている。環境教育・防災教育を重視し、持続可能な社会の実現に向けて生徒が課題を認識し、主体的に関わっていけるよう工夫されている。学校からは社会的状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習できるように配慮されているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、報告に対する質問をまず受けたいと思います。

○海野委員 見やすさやわかりやすさという点では各教科書ともすごく工夫されていると思いますけれども、これについて採択資料作成委員会ではどのような意見が出たでしょうか。

○笠原委員長 どの教科書も成長の過程として、今の自分たちを捉え、自立に向けて今後どのように生活をしていくべきかどうかという構成で学習を進めています。そして、図や写真などの資料を効果的に掲載して、生徒にとってわかりやすい教科書となっております。採択資料作成委員会では、実寸大の写真に掲載するなど、前回よりさらに工夫されていていくという意見がありました。

○平井委員 先ほど小学校との関連について説明がありましたが、そのことについて、もう少し詳しく説明をしていただけますか。

○笠原委員長 どの教科書も導入で小学校との関連について扱っています。

具体的には、東書では、中学校との学習内容を領域ごとに小学校のときの学習内容と比較して確認して示しています。また、各領域の学習の初めに、改めて小学校の学習内容を示して、関連性を指導するようになっています。

教図では、領域ごとに小学校の学習内容の振り返りをして、それを教科書に書き込み、その上で中学校の学習での目標を立てるようなコーナーが設定されています。

開隆堂では、巻頭のコーナーで小学校で学習したことを振り返り、中学校での学習内容につなげるというような構成になっています。

○松樹委員 今いろいろ意見をいただきましたけれども、他に採択資料作成委員会で何か特段話し合われたようなことはありますでしょうか。

○笠原委員長 そのことについては、教科書の内容量が豊富で資料が多いことから、授業だけでは全て扱うことは難しいのではないかという意見が出されました。教員からは、実際に全てを扱うことはできない状況はありますが、生徒にとっては、教科書であると同時に、興味関心を持つための資料として、学習意欲を高めるためには内容や資料が充実しているほうが効果的であり、有効であるという意見も出されました。

○伊藤教育長 家庭科もそれだけの時間はとれていないし、そういう教科になりつつありますね。以前の学習指導要領の時数配分だと、また少し違っていましたが、今は本当にそんなに時間がとれませんからね。先ほど平井委員から質問があったように、東書と教図については、確実に小学校の振り返りをしてから中学校に領域別に、小学校でこういうことをやりました、中学校はこうしますという確認で、開隆堂だけは、巻頭に小学校で学習したこととあって、すぐにこっちに移って、中学校ではどんなことができるようになるでしょうかというつなぎ方です。他に質問はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、5人で協議しますけれども、何か意見がありましたらお出しください。

○岡部委員 家庭科というのは衣食住の基本的なものを学ぶとても大切な教科だろうと思います。ある意味総合学習なのかなと考えます。今、松樹委員の質問のお答えですが、授業だけで全てを扱うことは難しいのではないかという意見もあったというお話でしたが、そういうことに鑑みますと、子どもたちが主体的に取り組めるような具体的な手順とかわかりやすさがきちんと記されていることも大切で、選ぶときのポイントにしたいと考えます。

○松樹委員 いろいろなことをお聞きしまして、小学校からの流れもそうですし、これを家庭分野としての総合学習という話もありましたけれども、1つの資料としても使えるという形の教科書が一番よいのではないかと私は思います。もちろん家庭というコマ数を考

えれば、全部を事細かにやるのはなかなか難しいのではないかと思います。ただ、子どもたちがぱらぱらめくっていても大変おもしろい、私が見てもおもしろい内容になっていて、興味をそそられる内容になっていると思います。その中で、内容はもちろんですが、見やすさとか簡潔に書いてあるとか、そういうところは結構大切なファクターになってくるのではないかと考えております。

○海野委員 内容の点で比べてみました。各教科書とも「幼児の生活と家族」というところを取り上げていると思うのですが、私は東書がよいと思っていて、本当に中学生は年齢的に1人で大きくなったような態度をとるときがありますね。そういう点で、この家庭科の教科書を通して、自分が家族の人と、また、社会の人にこんなにお世話になってここまで大きく成長したということ、この教科書を通して読み取ってほしいという点で、東書は子どもの施設の1日を観察できるように見開きのページであらわして、時間的に追って工夫されて表現されていると思います。また、成長を振り返ろうのコーナーが設けられて、成長の道筋がアニメと写真で掲載されて、家族や社会とのかかわり合いを学習するようになってきていると思います。ほかの教科書も全てそのコーナーを設けてあるのですが、東書の表現が一番充実していると思いました。

○平井委員 小学校の家庭科から中学校に向けて、内容的には小学校の内容の幅が広がったという形になっていて、この教科書の厚さを3年間で学んでいくには時数が少ない中で結構大変だろうなと思います。いろいろ工夫がされていて、小学校とはまた一味違うなというのは、食品の概量ということで、手ばかりや目ばかりがあることと、実際に実物を乗せて、その食物が何グラムであるかというような表示がしてあるのは、これから男女がともにいろいろな形で補い合い、生活をしていく中では、こういうところはすごく大きいと思います。

ミシンの取り扱いも含めて小物づくりは小学校でもやっていて、どの教科書も取り上げられています。東書が意外と多くのもを載せながら、その中で選択をしていくことになっているのではないかと思います。そういう点でも、子どもたちが選んで自分の思い思いのものをつくっていくという点では、いろいろなものが例示されてよいのではないかと見ました。

○伊藤教育長 家庭科ですけれども、生き方というか、成長の中、中学校の今の部分で次のこと、これまでのことを思ってどんなことができるか、自立に向けての取り組みという流れの中で皆さん構成されているので、本当によい教科書だと思います。あとは、使うほ

う、またはそれを活用するほうの子どもたち、教員にとってどうなのかというのは判断の材料になると思います。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 択)

(東書4票、教図0票、開隆堂1票)

○伊藤教育長 結果、技術・家庭（家庭分野）につきましては、最多の4票を得ました東書を採択することに決定します。

それでは、英語について審議を進めたいと思います。採択資料作成委員会の調査結果の報告をお願いします。

○笠原委員長 英語は、東書、開隆堂、学図、三省堂、教出、光村の6種です。

東書は、オーストラリア・ブラジル・イギリス・中国等、諸外国の文化や生活が多く扱われ、国際理解につながる内容が多くある。Presentationでは日常生活・将来の夢・日本文化の紹介等、様々なトピックから4技能を磨く形式になっている。Unitごとに基本文法事項を取り上げ、それを中心に聞く・話す・読む・書くの4技能の演習を行っている。教科書に英文をそのまま書き込めるスペースが多く、書く力の向上にも力を入れているのがわかる。学校からは、言語活動をバランスよく配置しコミュニケーション能力の基礎を養えるように工夫されているという意見が多くあった。

開隆堂は、教育基本法に示されている「自他の敬愛と協力」に関連して、発表活動において、学び合い、高め合う「協働学習」の要素が取り入れられている。全学年の巻末にCan-Doリストがあり、3年間を見通した学習目標を技能別に設定している。1セクション見開き2ページで、左側には対話形式の基本分(Basic Dialog)と基礎レベルの「聞く・話す」活動、右側には本文を「読む」、基本文の表現を使って「書く」活動でまとめられており、学びやすく、教えやすい構成になっている。学校からは、体裁がよく生徒が使いやすいよう配慮されているという意見が多く、支持を得ていた。

学図は、教育基本法に示されている「社会の形成に参画」に関連し、リサイクルや省エネを取り上げ、また国際社会で活躍する人物の伝記を通して人間愛の精神を深め、思いやりの心について取り上げている。各学年とも章ごとのテーマがあり、それがどのような力をつけるのかが明確に記され、最後のProjectで完結する形になっており、言語活動が充実するように構成されている。発音記号の資料の説明が分かりやすい。学校からは、言語

活動をバランスよく配置しコミュニケーション能力の基礎を養えるように工夫されているという意見が多くあった。

三省堂は、自他を尊重した人間の生き方を考える題材があり、道徳教育の充実を目指した内容となっている。また、少数民族の魂など、国際社会の平和と発展について考えさせる題材がある。各レッスンを「基礎・基本」「長文」「活用」「ふり返し」の4つのパートに分け、学びのプロセス、指導のプロセスが見えやすい。言語活動の充実を目指し、各Lessonのword bank、付録ページが工夫されている。学校からは、世界の文化や暮らしなど国際理解を深めることにつながる興味・関心を引き出し育てる内容が適切に取り上げられているという意見などにより、多くの支持を得ていた。

教出は、英語を母語とする国だけでなく、韓国やベトナムなど、アジア諸国も題材としており、国際理解を深める内容になっている。マッピング等で自分の考えを深めさせる課題や、1つの英文表現に自分で自由に文を加えさせる課題があり、コミュニケーションの素地となる意識を育てる教材構成となっている。文法説明や課題の指示が丁寧で分かりやすく、授業の日本語による指示・説明を最小限に止めることができる。別冊として各単元の学習内容をひとまとめにしたものがある。学校からは、社会的状況を反映した題材を取り上げ生徒が興味を持って学習できるように配慮されているという意見が多くあった。

光村は、学習指導要領に関連して4技能を総合的に使って自分のことを表現する「Go For It」が設定されている。国際理解、環境問題や人権問題、キャリア教育等について、様々な視点からの教材があり、生徒が興味をもって楽しみながら読めるものが多い。中学生の日常に焦点をあて、登場人物の成長を通して他者とのコミュニケーションの取り方を考える設定になっている。3つの單元ごとにlanguage focusという文法のまとめのページが設けられていて、わかりやすく説明されている。学校からは、学習指導要領に照らして必要なものが適切に取り上げられているという意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明に対しての質問等をまずお受けしますので、よろしくをお願いします。

○松樹委員 子どもたちが学習するに当たって学習の進め方について、どの教科書もすばらしくて、よく工夫をされていると私は思っているのですが、これについて採択資料作成委員会では何か意見等、話題になったことはありますか。

○笠原委員長 どの教科書も登場人物が設定され、キャラクターが学習のポイントなどを示して、英語に親しんで学習できるように工夫されています。採択資料作成委員会では、

書き込み式の教科書について、発音記号の指導について、文法の指導についての3つが話題となりました。

1つ目の書き込み式の教科書については、使いやすいのではないかという意見がありました。

2つ目の発音記号の指導については、特徴的な発音と発音記号の関係に触れる程度の指導を行っているとのことでした。

3つ目の文法指導については、基本的にはどの教科書でも同じですが、長文を読む際には、文法を理解した上での読む力が必要であるという意見もありました。

○平井委員 現在、海老名市でも小学校の英語活動が行われているのですが、その関連について、採択資料作成委員会で何か話題になったことはありますか。

○笠原委員長 このことについては、作成委員会で特に意見はありませんでした。事務局からもし説明があればお願いいたします。

○教育指導課長 「神奈川県教科用図書調査研究の結果」で、英語の12ページには、まず、「聞くこと」に関しては、入門期における小学校外国語活動との関係があります。ここではイラストを見ながら挨拶や自己紹介を聞き取る活動がどの発行者でも設定されています。同じく英語の14ページには、「話すこと」に関して、入門期における小学校外国語活動との関係があります。ここでは、小学校で学んだ内容を再度確認したり、入門として挨拶や自己紹介などの話すほうの活動を行うコーナーを、どの発行者も同じように設けています。

○伊藤教育長 どの発行者もそういうものを設けているということでございます。

○海野委員 国際理解に関することですが、各教科書はどのように取り扱われているのでしょうか。説明をお願いします。

○笠原委員長 国際理解に関することは、先ほど説明したとおりで、どの教科書でも取り扱われております。「神奈川県教科用図書調査研究の結果」によりますと、東書では、インドの食事、アメリカの学校生活、アラスカのイヌイトなどが扱われております。開隆堂では、イギリス旅行、ホームステイ、海外で活躍する日本人ボランティアなどが扱われております。学図では、アメリカの中学校生活、イギリスの旅、地球規模の環境問題などが扱われています。三省堂では、イギリス文化やアメリカの中学校生活、ハワイの伝統文化、フランス文化に影響を与える日本文化などがありました。教出では、ニューヨークのクリスマス、世界の水問題、イギリスのホームステイなどがあります。光村では、各国

の朝食、日本とトルコの友好、カンボジアの子どもたちの生活や地雷などが取り扱われています。そのほかにもたくさんあるのですけれども、以上です。

○伊藤教育長 他には質問はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、協議に入りたいと思いますので、見ていただいてご意見があればお願いしたいと思います。

○岡部委員 私は、英語は小学校でも少しやっていますけれども、本格的に勉強するのは中学生からだろうと思います。そういう意味では、まず1年生がつまづかないような構成になっているかということを考えました。

次に、書くとか読むというところをしっかりと身につけてほしいと思っています。コミュニケーション力もちろん大切なことですが、基本的にはしっかり書くこと、読むこと、そのベースとなる文法、そこどころがきちっとおさまっていないと、国際理解、あるいは異文化を理解することにつながっていかないのではないかと考えております。そういう意味では、スタンダードなもの、オーソドックスなものに1年生からきちんと入っていくものを選びたいと思っています。

○海野委員 英語ということで、今も質問させていただきましたけれども、国際理解を深めるということはとても重要なことだと思います。東京オリンピックも5年後に控えておりますので、英語の活動をいかにオリンピックに実践できるかということで、英語というのは、これからはとても大事だと思います。国際理解を深めるということで、マララさんのこととマザー・テレサのことが書かれている教科書があったので、教育や平和について考えさせられて、子どもたちに自分の意見を持たせる内容も取り上げられていることについてはすごく有意義なことが取り上げられていると思って、「Education First」ということで、マララさんの物語が取り上げられている点はよいと思いました。

○伊藤教育長 どこに取り上げられていますか。

○海野委員 開隆堂です。

○伊藤教育長 それがよいと思いましたか。

○海野委員 はい。

○松樹委員 各教科書とも国際理解とか国際関係の長文の題材をもとにしてということがあるのですが、やはり小学校から連続した中で基礎が一番だと思います。英語を学んでいく中で、本人が興味を持って使ってみたいとか、ふだんの生活の中で英語は知らず知らず

のうちに結構あると思うのですが、これは習ったとか、身近にあって子どもたちが興味を持って学習できるというのが一番だと思います。それを踏まえた上での国際理解だと思います。その中で、通年して1・2・3年生と階段を上るように内容のある教科書が私はよいと思っております。

各教科書会社はいろいろ工夫してつくられていると思うのですが、私は名前がどのようではないのですが、白いところが多い会社が見受けられます。こんなに空欄があるのだったら、もう少し教科書を小さくしてコンパクトにしてあげればよいと思うこともありますので、私は見た目の構成も大切な要因なのではないかという考えでおります。

○平井委員 小学校の英語活動から、教科書を使って英語の学習をするという英語学習の本格的なものが始まってくるわけなので、そういう点では、今まで教科書がない中で学習していた子どもたちが、教科書を使ってどんなふうに学んでいくかは皆興味を持ってきたと思うのです。さらにここに書くとか読むとか聞くとかいろいろなことが入ってきますので、そういう要素を1年生のときにどういう形で子どもたちが獲得していくかというところが大きいと思います。

先ほどもお尋ねしましたけれども、どの教科書会社も小学校とのつながりを復習の形やいろいろな形で構成してくださっているのはすごくよいと思っています。子どもたちが教科書を見て学びやすい。ましてや、なれない文字がたくさんある中で、どういうふうに教科書を開いて見ていくのかというところも大きいかと思っておりますので、そのあたりのところを私は見ていきたいと思っています。

それと、松樹委員から、少し余白がというお話があったのですが、私は逆に少し余白があるほうが、一呼吸置けるかなという思いを持っているのですね。ですから、余りごちゃごちゃ入るよりも、ある程度の余白を持ちながら、子どもたちが次のところに視線を向けていくほうがよいなど、個人的にはそう感じているので、そんな視点から教科書を見させていただきました。

○伊藤教育長 英語については、この後、文部科学省は小学校でも教科化して英語学習を下に下げるということで、小学校で、また教科書としての扱いが今後出てくると考えられます。そのときに、また中学校の教科書が、そのつながりとしてどういうものになるかというのが考えられると思います。他にございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。

(挙 手 採 択)

(東書0票、開隆堂3票、学図0票、三省堂2票、教出0票、光村0票)

○伊藤教育長 結果、英語につきましては、最多の3票を獲得した開隆堂を採択することに決定します。

以上をもちまして1点目の平成28年度使用中学校教科用図書の採択についての審議を終了とします。笠原委員長におかれましては、採択資料作成委員会の報告等、ありがとうございます。2点目、3点目の審議については直接関係はないですけれども、そのままご同席願えればと思いますので、よろしく申し上げます。

では、引き続き、2点目の平成28年度使用小学校教科用図書についての審議に入ります。審議に入る前に、事務局から採択についての説明をお願いします。

○教育指導課長 平成28年度使用小学校教科用図書採択についてご説明いたします。

小学校教科用図書については、昨年度に海老名市教育委員会において、平成27年度から30年度まで4年間使用する教科用図書を別紙2の平成27年度使用小学校教科用図書一覧のとおり採択しておりますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、毎年度採択することが規定されております。そこで、特段の変更理由がないため、平成28年度についても平成27年度使用教科用図書を継続して使用するため、改めて採択について議決を求めます。

○伊藤教育長 それでは、皆様、別紙2をご覧ください、これは昨年度、皆さんに採択していただいたものですが、ここに一覧表があります。国語・光村、書写・光村、社会・教出、地図・帝国、算数・東書、理科・学図、生活・啓林館、音楽・教出、図画工作・開隆堂、家庭・東書、保健・光文となっておりますけれども、これについて、先ほどの説明についてご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 特段の変更もないということですのでよろしいでしょうか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、異議なしと認めます。2点目の平成28年度使用小学校教科用図書についてを原案のとおり可決いたします。

続いて、3点目の平成28年度使用特別支援学級教科用図書についての審議に入ります。審議に入る前に、事務局より採択についての説明をします。

○教育指導課長 平成28年度使用特別支援学級教科用図書の採択について説明いたしま

す。

通常の小・中学校の教科用図書は、採択地区ごとに1種目について1種類の図書が採択され、4年間にわたり使用することになっておりますが、特別支援学級教科用図書については、学校教育法附則第9条による教科用図書及び高等学校で使用する教科用図書についてによりこの限りではなく、1年間の採択期間で、種目について複数の図書を採択することができます。そこで、文部科学省著作教科書及び別紙3、平成28年度用一般図書一覧から教科用図書として児童生徒に応じて選択するため、採択について議決を求めるものであります。なお、別紙3、平成28年度用一般図書一覧は、平成27年3月の時点のものでございますので、実際には平成27年12月に発表される最新の一覧より選択することになります。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○平井委員 一般図書は児童生徒に応じて選択するという形になっていると思うのですが、現在どのように選んでいるのかというところが1点。

もう1点は、現在の市内の使用状況についてお知らせいただきたいと思います。

○教育指導課長 中学校1年生の段階では、基本的には検定本を使います。2年、3年につきましては、担任、保護者と相談をしながら、検定本にかわる一般図書を選んでいく。その子の実態に応じて一般図書の中から教科書のかわりに選べますということでございます。

一般図書の使用の割合ですけれども、中学校では6校中3校が使用していないという現状がございます。使用している3校の使用の割合については、8割以上の生徒が何かしらの教科において一般図書を使用しているということになっております。

小学校のほうは、使用している学校は13校中10校の児童が何かしらの一般図書を使用している。やはりこれも使用している学校においては8割以上の児童が何かしらの教科において一般図書を使用しているという現状でございます。

○松樹委員 今のご説明で中学校1年生に関して通常の教科書を使っているということですが、今の採択の中で、まだ入学をしていませんので、制度的、時間的にも厳しいという形ですか。

○教育指導課長 結局は1年生に上がる時点では、上がってくる子の情報等がなく、また、保護者とも一般図書を使う相談ができませんので、基本的には検定本を使うということです。しかしながら、それ以外の本を買ってはいけないということではないので、入学

してから、その子の実態に応じていろいろな本を使って学習を進めることは可能です。ただし、1年生は無償としては検定本を配付することになります。

○伊藤教育長 ただ、1年生はそれしか使えないという意味ではございませんので、事前に相談ができるような状況があれば、それを申請すればよいということでございます。ただ、現状では非常に難しい状況があるということで、1年生は絶対に一般図書は選択できませんという意味ではございませんので、その辺はご了承ください。

○松樹委員 実情に合った教科書を使っていただきたいというのが一番手ですので、もちろん事前にわかれば検定本にかえていただいて、子どもの実情に沿った中で選んであげていただきたいというのが希望でありますので、よろしくお願いします。

○伊藤教育長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 よろしいですか。原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 異議なしと認めます。

それでは、3点目の平成28年度使用特別支援学級教科用図書についてを原案どおり可決いたします。

以上をもちまして日程第2、議案第17号、平成28年度使用教科用図書採択についての議案につきまして終了といたします。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会7月定例会を閉会いたします。